



ちようふピースメッセンジャー 2022

次代を担う子どもたちを市民の代表“ピースメッセンジャー”
として任命し、被爆地への派遣などを通じて、戦争の悲惨さや
平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市
民へ還元することを目指します。

令和4年度調布市中学生被爆地平和派遣事業 ちようふピースメッセンジャー2022 報告書

調布市 CHOFU TOKYO



もう一度、平和がどれだけ尊いものか考え直してほしい。
知ってほしい。

—ピースメッセンジャー感想文より—



調布市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

原爆犠牲

原爆殉難者名奉安

はじめに

調布市は、「調布市非核平和都市宣言」及び「調布市国際交流平和都市宣言」の理念のもと、毎年様々な平和祈念事業を実施しています。

令和4年度は、11人の中学生を市民の代表“ピースメッセンジャー”として被爆地である長崎へ派遣し、学びの成果を広く市民へ還元することを目指した「調布市中学生被爆地平和派遣事業」を実施しました。ピースメッセンジャーは事前学習会、朗読発表、長崎での戦争関連施設の見学や青少年ピースフォーラムへの参加などを通じて戦争・平和に関する学びを深めました。

この報告書をご覧ください、ピースメッセンジャーが学んだことが一人でも多くの方に伝わるとともに、平和の尊さを改めて感じ、考えるきっかけとしていただければ幸いです。

令和5年3月

調 布 市

目次

はじめに	
ピースメッセンジャーの役割	1
ちょうふピースメッセンジャー2022紹介	2
<hr/>	
第1部 ピースメッセンジャーの感想文	3
<hr/>	
第2部 ピースメッセンジャー活動報告	17
ちょうふピースメッセンジャー2022活動スケジュール	18
Part1 【学び】	
任命式	20
事前学習会	21
朗読練習	22
ナガサキ 映画と朗読プロジェクト/ 調布市平和映画・講話・朗読会	23
長崎平和派遣	24
事後学習会	31
Part2 【発信】	
ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニア合同報告会	33
報告会の内容	34
メッセージボード巡回展「つながる」	40
平和祈念事業	43
黙とうの呼びかけ	
折り鶴でつくるカラフルアート～親子で平和なひとときを～	
調布市平和展	
<hr/>	
第3部 ちょうふピースメッセンジャージュニアの取組	47
ちょうふピースメッセンジャージュニア2022紹介	48
ちょうふピースメッセンジャージュニアの活動内容	49
ピースメッセンジャージュニアの感想文	51
<hr/>	
第4部 自主活動	58
ピースメッセンジャー2021 太期 結子・村上 葉	59
ピースメッセンジャー2021 阿部 咲生奈	61
ピースメッセンジャージュニア2022 一宮 健人	
ピースメッセンジャージュニア2022 唐木 宏之介	62

第5部	資料	63
	折り鶴プロジェクト	64
	平和首長会議	65
	日本非核宣言自治体協議会	66
	平和都市宣言（調布市非核平和都市宣言／調布市国際交流平和都市宣言）	67
	調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト	68
	その他平和祈念事業の紹介	69
	おわりに	70

ピースメッセンジャーの役割

ピースメッセンジャーには、以下の役割があります。

1 市民の代表として調布市長から任命を受け、戦争の悲惨さや平和の尊さについて意欲的に学ぶ

ピースメッセンジャーは、7月3日（日）の任命式から9月4日（日）の事後学習会まで、多くのことを学びました。

2 発信する

平和への想いをまとめたメッセージボードを作成し、イベントや市内公共施設での「メッセージボード巡回展」を通して多くの市民の方にご覧いただきました。

また、各種平和祈念事業に参加し、平和への想いを発信しました。

— イベントへの参加 —

「ナガサキ 映画と朗読プロジェクト」での朗読発表

「調布市平和映画・講話・朗読会」での朗読発表

「親子で折り鶴アート～希望の色で世界を平和に～」への参加

— 報告会 —

市特別職への報告会

平和展活動報告会

— メッセージボード巡回展「つながる」 —

姉妹都市長野県木島平村 木島平中学校「けやき祭」

FC東京イベント「NO PLANET, NO TOKYO」

市民活動支援センター

調布市青少年ステーションCAPS

文化会館たづくり II 階みんなの広場

文化会館たづくり I 階ロビー

東部公民館

北部公民館

西部公民館

郷土博物館

ちょうふピースメッセンジャー2022 紹介

市内在住又は在学の中学生11人が“ちょうふピースメッセンジャー2022”として活動しました。



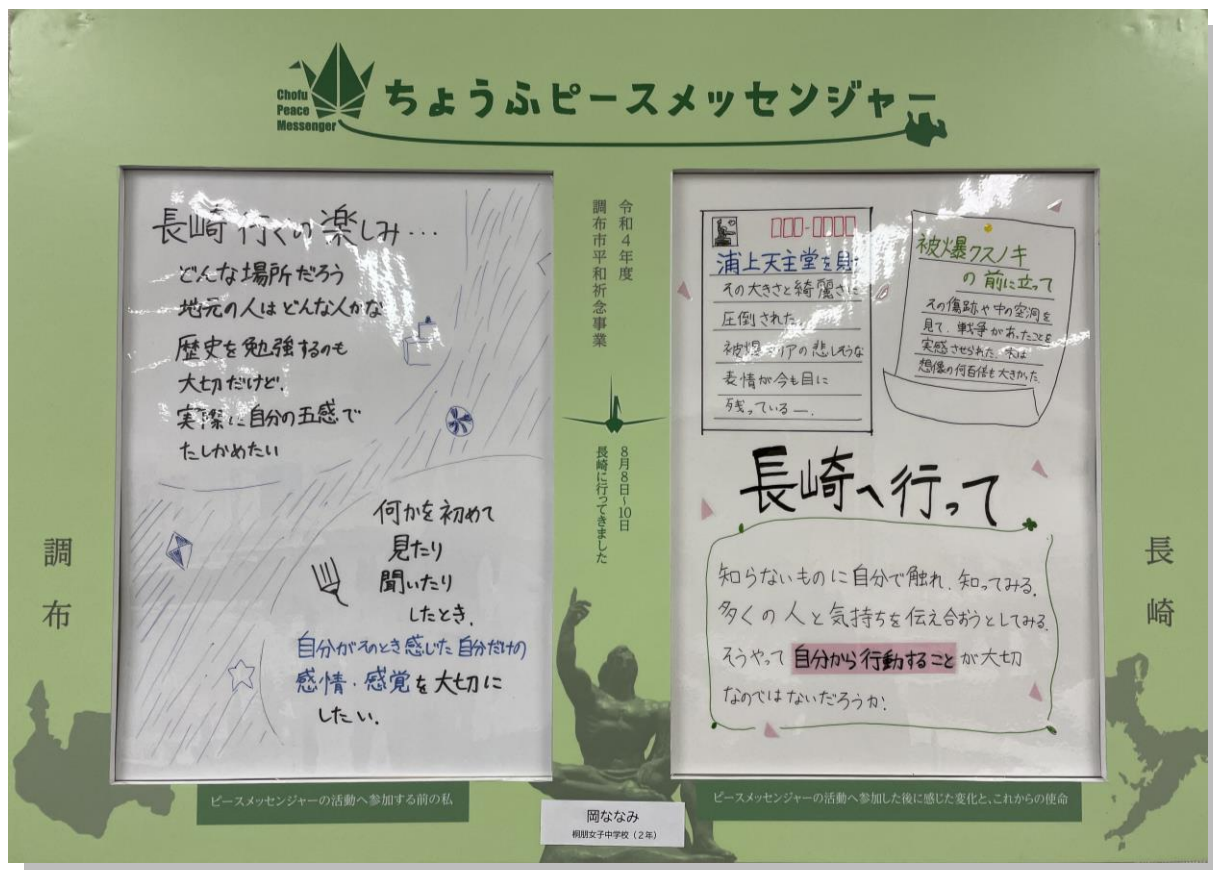
岡 ななみ	(おか ななみ)	桐朋女子中学校(2年)
落合 奏太	(おちあい かなた)	調布市立第七中学校(2年)
金子 真衣	(かねこ まい)	調布市立第八中学校(1年)
工藤 海寿寿	(くどう みすず)	桐朋女子中学校(3年)
久保田 輝汰	(くばた こうた)	調布市立第四中学校(1年)
斉藤 莉梨奈	(さいとう りりな)	晃華学園中学校(1年)
笹生 優奈	(ささお ゆな)	調布市立第五中学校(1年)
清水 蒼大	(しみず そうた)	調布市立第五中学校(1年)
太期 詠子	(だいご えいこ)	晃華学園中学校(1年)
滝 理沙子	(たき りさこ)	調布市立第七中学校(1年)
邊母木 桃子	(へばき ももこ)	調布市立第七中学校(2年)

第 Ⅰ 部

ピースメッセンジャーの 感想文

ピースメッセンジャー一人ひとりの「感想文」と活動前・活動後の平和への想いをまとめた「メッセージボード」を紹介します。

ピースメッセンジャーが作成した原文のまま掲載しています。



未知の人とも

岡
ななみ

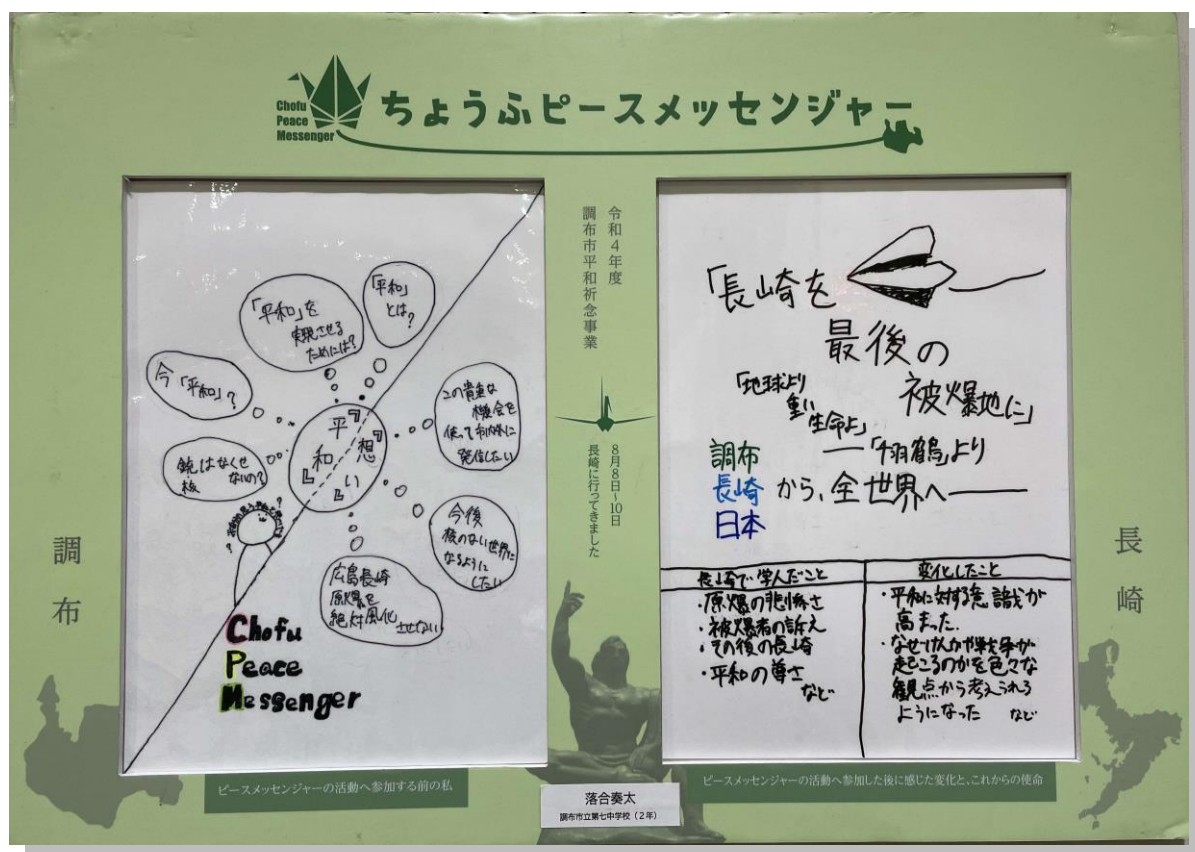
桐朋女子中学校（2年）

「戦争をなくすにはどうすれば良いのか？」

ピースフォーラムの意見交換会で多数挙がった意見の中で特に印象的だったのは「様々な国と交流する」という考えで、私にとって今回の長崎の派遣と重なる部分が大きかった。

写真でしか見たことのない浦上天主堂はその綺麗さに圧倒され、被爆マリアのあわれな表情、被爆クスノキの痛々しい傷跡から、悲惨な戦争があったことを実感させられた。自分の足で長崎を訪れ自分の目で見ること、想像を超える多くの出会いと見聞を広めることができた。

人間関係においても同様ではないか。年齢や居住地の異なる未知の人とも、対話で気持ちを伝え合うという行動を自分から起こすことで、相手との間に隔てられた壁を無くし、お互いに理解を深めることができる。そうしてより良い関係を築くために、これからも先入観に捉われず自分から行動し多くの人と交流していきたい。



原爆の脅威とこれから

たった一瞬のうちに多くの人の命を奪った原爆。もともと戦争のことについては興味を示していたが、詳しいことは長崎平和派遣が始まるまで分らなかった。

長崎では戦跡の見学や被爆された方の講話、そして平和祈念式典への参列といった活動を行った。見学した戦跡の中で一番印象に残ったところは、旧長崎医科大学の正門門柱だ。一発の原子爆弾による爆風により、二本のうち一本の位置がずれ、台座との間に隙間ができていた。実際にどのくらい重いか試してみたが中学生十一人の力がかかっても動かなかったため、それをも動かす爆風は凄まじいものだった。

今起きている北朝鮮におけるミサイル実験や、ロシア・ウクライナ間の戦争で、いつ人に被害が出るか分からない。

どうすればその確率を防げるか。その答えは、私たち中学生が調布市内外、国内外へと伝えていくことなのではないか、と思った。

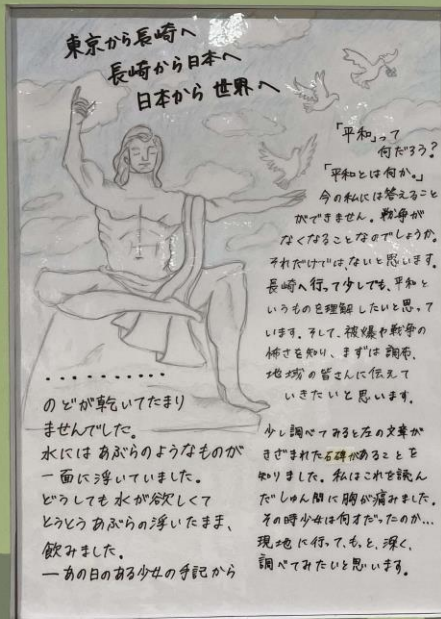
「長崎を最後の被爆地に」
この言葉を忘れず、これからも活動をしていきたい。

落合奏太

調布市立第七中学校（2年）



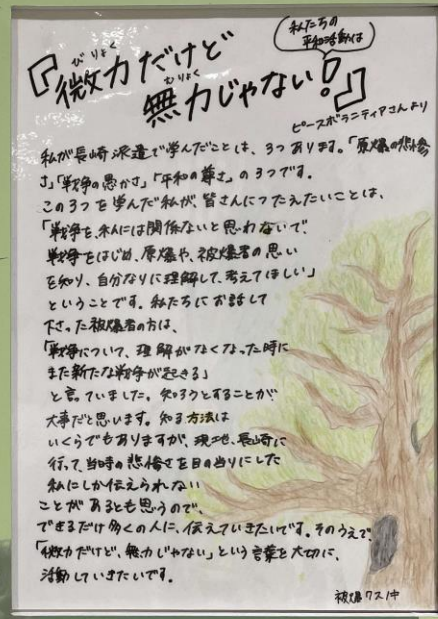
ちょうふピースメッセンジャー



令和4年度
調布市平和祈念事業

8月8日・10日
長崎に行きました

金子真衣
調布市立第八中学校（1年）



長崎

調布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

これまでの活動を通して学んだこと

金子真衣

調布市立第八中学校（1年）

私は、これまでの活動を通して学んだことが三つあります。戦争の愚かさ、原爆の悲惨さ、そして、命のたくましさの三つです。

戦争の愚かさについてはピースフォーラムでのディスカッションや、本を通して学びました。ディスカッションでは、戦争はなぜ起こるのかということについて話し合いました。みんなから出た意見は、争いで解決するようなものではありませんでした。太平洋戦争をはじめ、本当は争わなくてもよかったのではないかと、国が冷静に考えて行動していれば、亡くなる人もでなかったかもしれない。そう思うと、戦争は愚かだと改めて感じました。日本では第二次世界大戦だけで、約三百十万人もの罪の無い人々が命を落としました。

原爆の悲惨さについては、長崎での見学や、被爆体験講話、朗読を通して学びました。

長崎では、資料館をはじめ、一本柱鳥居や門柱城山小学校など、今もなお当時の悲惨さが残っている場所に行きました。特に資料館では、写真や実物とともに当時の悲惨さが生々しく残っていました。中には目を背けたくなるような写真もありました。胸が苦しくなるような説明もありました。原爆は、もう二度と使ってはいけない、そう強く感じました。しかし、地球上には、ビービー弾よりも多くの核が存在する、ということを知りました。



ここで講話で学んだことに繋がりますが、「長崎を最後の被爆地に」するためにはどうすればよいのか世界全体で考えなければいけない問題だと感じました。

最後に、命のたくましさについてです。長崎で見た二本の被爆クスノキから学びました。被爆クスノキとは、その名の通り、被爆したクスノキです。被爆後、爆風に耐えて2本のクスノキが残っていたのです。しかし、熱線などの影響で、一時は、葉もなくなり、木肌が焼かれて枯れかかってしまいました。しかし、その後芽を吹き返したのです。そして今では、青々と葉を茂らせています。当時の人にとってクスノキは生きる希望となりました。

そして今でも命のたくましさの象徴として長崎県民に大事にされています。命のたくましさは、他の人の命もたくましくする、そんなことを学びました。

今後は、学んだことを少しでも多くの人に伝えるために、ピースメッセンジャーの任期が終わったあとも、ピースボランティアなど活動が続けていきたいです。



ちょうふピースメッセンジャー

平和と言えるのは
いつ?

核兵器がなくなったら世界は
"平和"になるのか

今考えていることの
答えに繋がるような
字が書きたいです。

自分の言葉で戦争や
原爆がもたらす
被害を伝える

学校で学ぶこと
よりもより深い
字が書ける

被爆地で
本物を見て原爆
の恐ろしさを知る

本当に起きたという
ことを受けとめて
記憶や思い
を受け継ぐ

令和4年度
調布市平和記念事業

8月8日・10日
長崎に行ってきました

木村が長崎で感じた沢山の大切

長崎で被爆者の方のお話を
聞いて。今、一瞬、笑っている
時も、その時は気付かなくても後で
でも、その時間は貴重で大切な
ものということに生きているが気付ける

武力ではなく、話し合いて問題を
解決する。相手の話を聞いて
すぐ否定するのは話し合いではない。
だから私は、周りの人を大切に
相手を尊重する。自分の考えだけで行
動しないという目標を立てた。

長崎に行ったことで原爆、戦争に
ついて気付いたこと、新しい知識
や本物を見る大切さを感じた。

調
布

長
崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

工藤海寿寿
桐朋女子中学校 (3年)

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長崎を訪れて

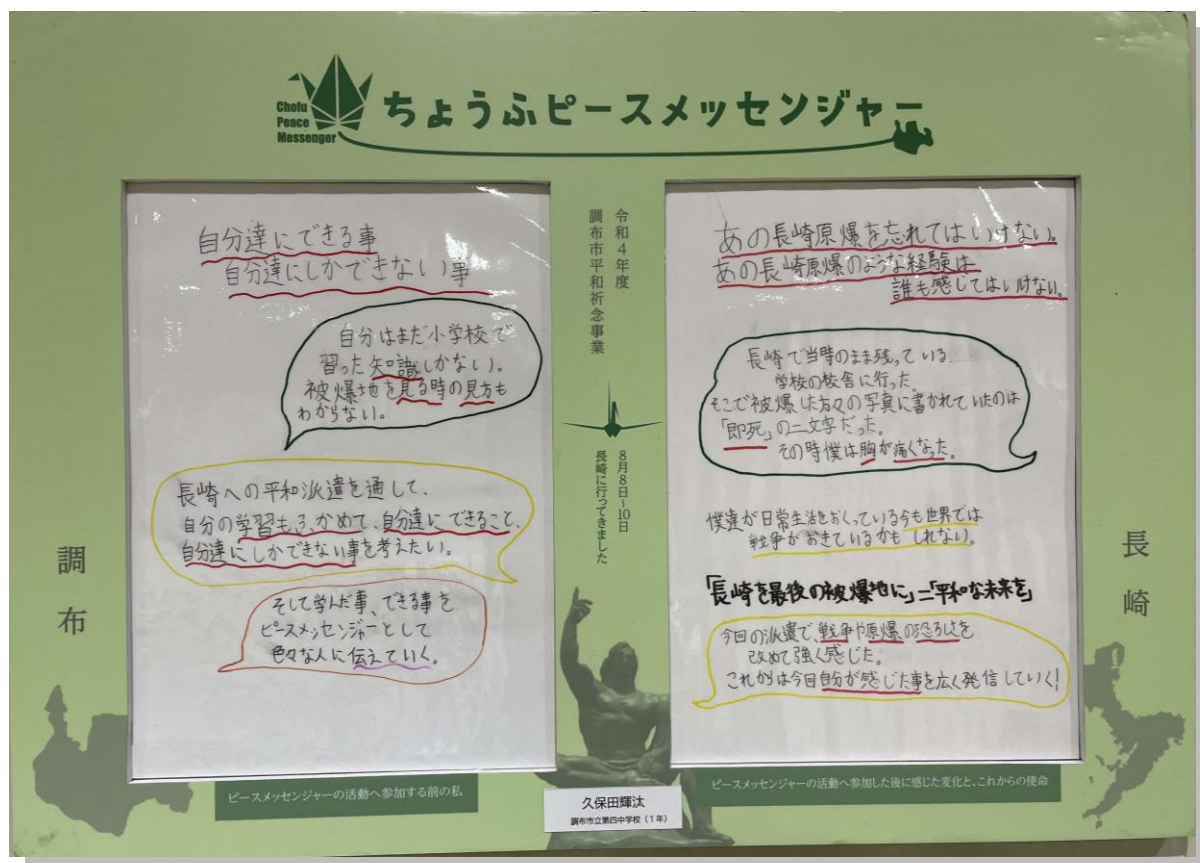
私は長崎派遣を通じて周りの人を大切に
して相手を尊重するという目標が
できました。これは、被爆者の山田
さんのお話を聞いて、次の瞬間にな
に起こるかわからないから日頃から
周りの人を大切にしようと思ったこ
と、相手を尊重しなければ話し合い
にもつながらず、最終的には武力に
よる解決になってしまうと考えたか
らです。

私は今後、人として相手の話を聞く
ことを大切に、調布市ピースメッ
センジャーとして聞いて、見たもの
の事実を伝えるときにもなぜ戦争、
核兵器使用がいけないことなのか
自分の言葉で伝え、広めていきたく
いです。

また、私がピースメッセンジャーに
なれた理由の一つにあった、沢山の
の方々と意見交換をするということ
を二日目のピースフォーラムで達成
することができました。

工藤海寿寿

桐朋女子中学校(3年)



長崎派遣を終えて

僕は調布市のピースメッセンジャーとして長崎に行き原爆の被害を目の当たりにして平和について深く考える三日間を過ごしました。

僕が印象に残った事は二つあります。

一つ目は、「旧城山国民学校舎」に行った時、被爆者の写真にはほとんどが「即死」と書いてあった事です。学校、家、病院、会社などで日常生活をおくっていた人が、なにもわからないうちに一瞬で死んでしまったと思うとすごく胸が苦しくなりました。

二つ目は爆風の影響です。爆風の影響を受けた当時のまま残っている建造物を見学することができました。「二の鳥居・一本柱鳥居」では、鳥居が爆風で半分にわれたり、鳥居の上の部分だけがずれていたり他にも柱に刻まれた文字が、爆心地の方向だけ削れて読めなくなったりと、爆風がどれだけすさまじい物だったかを感じました。

また、爆心地から離れた所にある「被爆クスノキ」を見て原爆の規模がすごく広いという事を実感しました。

当時、原爆によってなにもなくなってしまった長崎に枯れたと思われていたクスノキが二ヶ月後に再生し、その姿は本当に人々の生きる希望となったのを強く感じられました。

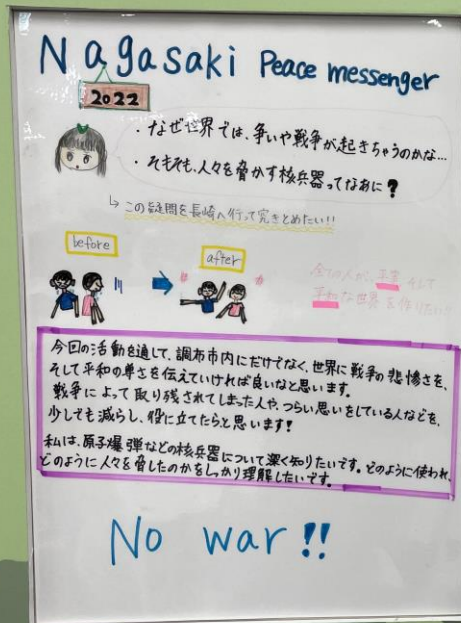
僕はこの派遣で原爆がどれほど残酷なのか分かりました。僕達は平和に生活しているけど、世界では今も戦争をしている国があって平和に生活できない所もあります。だから僕は身近な所から、市内や市外に戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを広く発信していきたいと思っています。

久保田
輝汰

調布市立第四中学校(1年)



ちょうふピースメッセンジャー



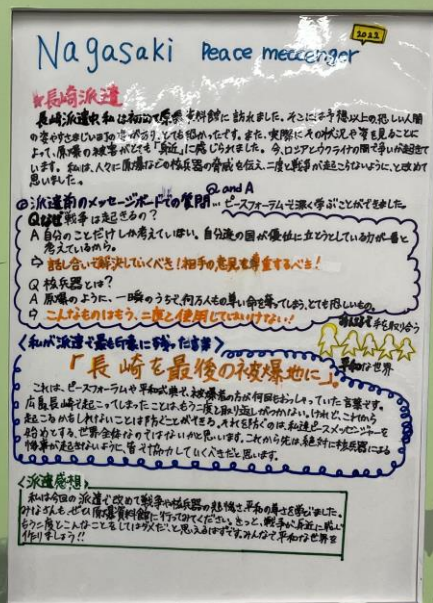
調
布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和4年度
調布市平和祈念事業

8月8日
長崎へ行って来ました

斉藤莉梨奈
晃華学園中学校（1年）



長
崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

二泊三日の長崎の旅

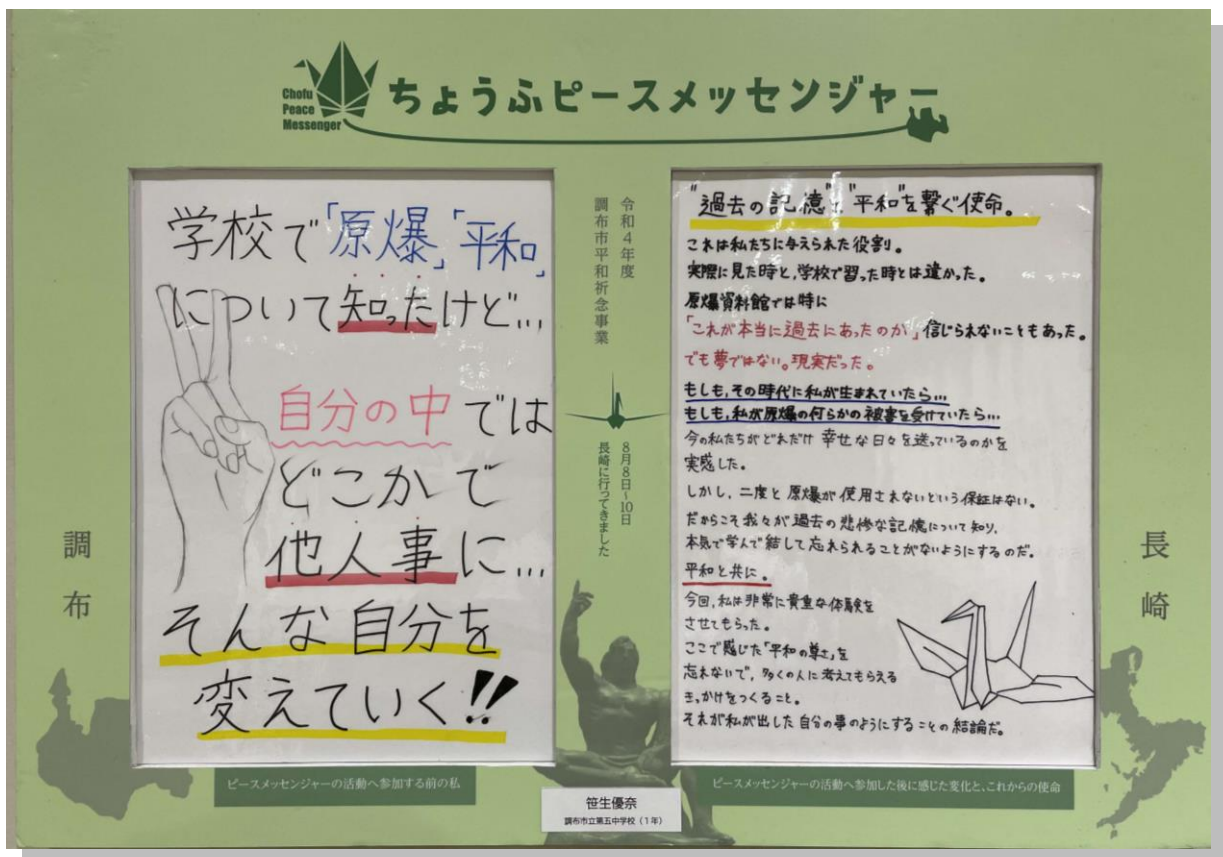
斉藤
莉梨奈

晃華学園中学校（1年）

二泊三日で行った、長崎。私はそこで、様々なことを学びました。

一日目では、ピースフォーラムで被爆者の方の貴重なお話を聞くことができ、フィールドワークで暑かったけれど原爆でどのように影響を受けたのかを知ることができました。とてもためになる一日でした。二日目は、祈念式典に参加したり、原爆資料館へ行きました。特に印象に残っているのは、ピースフォーラムで色々な県の人と平和について意見交換をしたり、交流したこと。色々な方向から物事を考えることを、学びました。永井博士の人生について学び、原爆中心地等にも訪れ、改めて戦争の恐ろしさを実感しました。

長崎で、私はたくさんの経験をすることができました。これからも、長崎で学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さを、調布市だけでなく、世界に発信していきたいと思います。



つながなければならない二つ

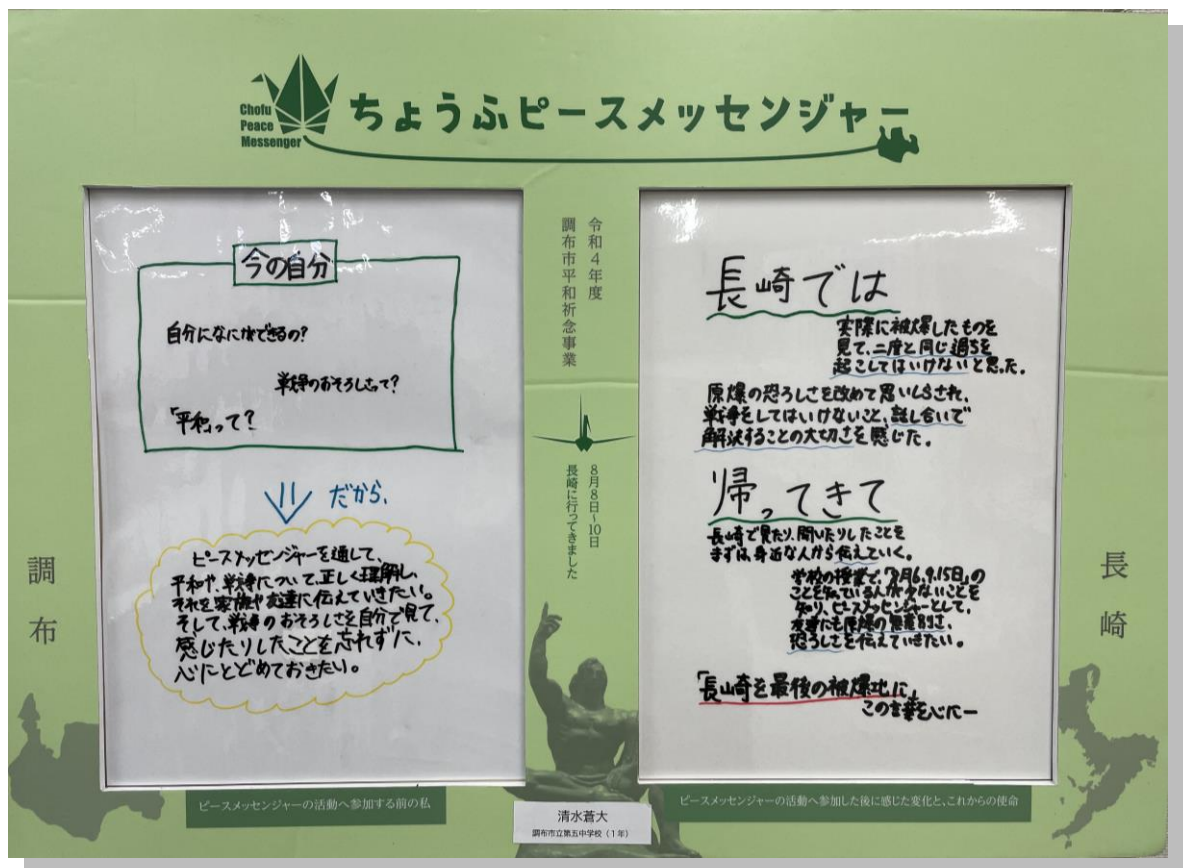
私は平和派遣事業を通して今の私たちがいかに幸せなのかということを知り、感謝するようになりました。さらに前よりも自分のこととして戦争について感じられるようになりました。

特に印象に残ったのは二日目に行った原爆資料館でした。そこで実際に原爆の被害を受けた人の姿、物を見て私は言葉を失いました。これが本当にあったことなのか信じられないとも感じました。もしも自分が原爆によって被害を受けていたらと考えるとただ「怖い」という感情になりました。だからこそ、被爆者の人たちが二度とくり返さないでと強く訴え続けているのだと分かりました。

これからはメッセンジャーとしてした貴重な経験を伝えて自分のできる範囲で原爆はもう二度と使われてはいけないう、私たちの幸せは過去の記憶と共につないでいかねばならないということをつなぎたい。

笹生 優奈

調布市立第五中学校(1年)



長崎派遣。そして、これから

清水 蒼大

調布市立第五中学校（1年）

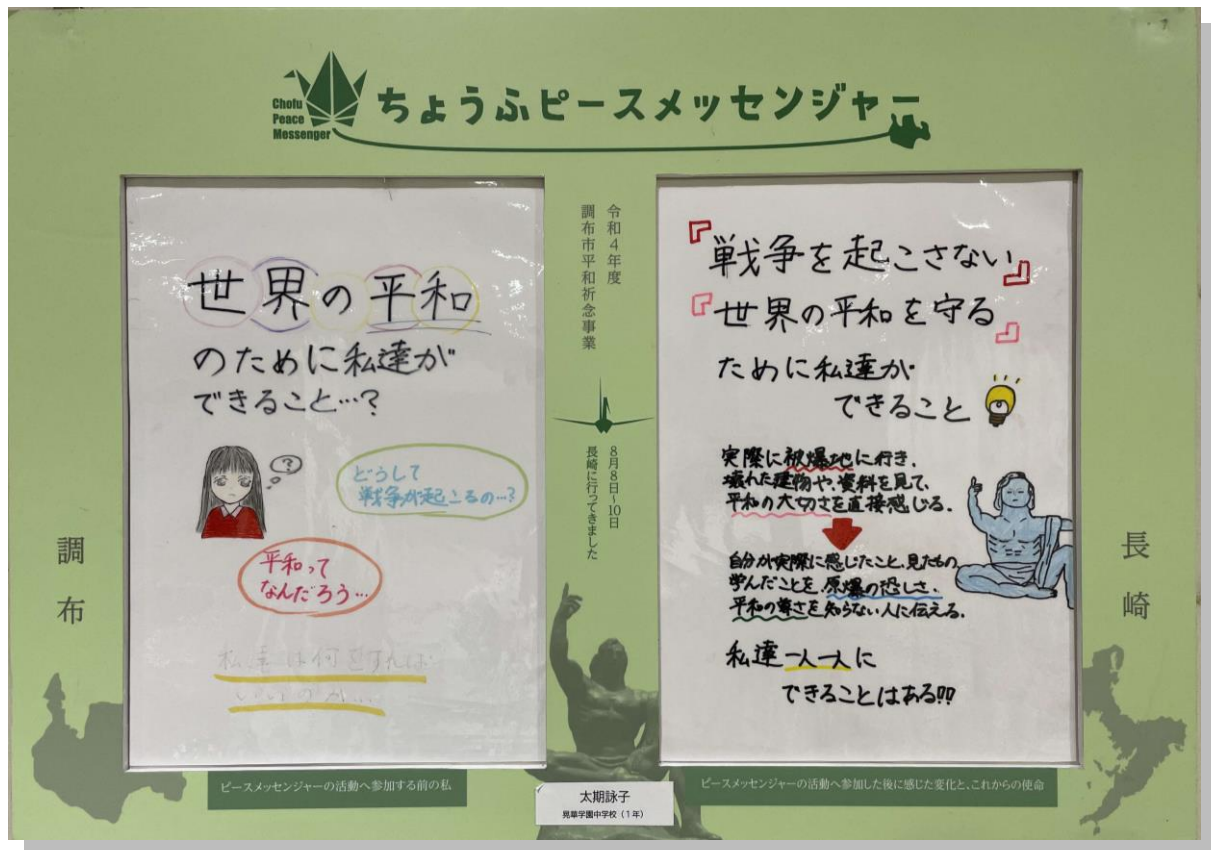
僕は、不安と期待でいっぱいの中、長崎に行きました。そして、毎日色々なことを学びました。

一日目、僕はピースフォーラムに参加し、フィールドワークをしました。被爆したものを実際に見て、改めて、原爆の恐ろしさを感じました。

二日目は、長崎原爆資料館を見学しました。実際の写真があり、目をそむけなくなりました。また、放射線の被害は何年も先までいきようを及ぼすことを知りました。

そして三日目、永井隆記念館で、自分のことより人のことを優先する永井先生のことを聞き、感動しました。

この三日間で学んだことは「見る」との大切さです。そして、次はその「見」てきたことを身近な人から「伝える」ことが、ピースメッセンジャーの役目だと思います。



ピースメッセンジャーでの学び

ピースメッセンジャーの活動や、長崎で実際に見たものについて、たくさんの学びがありました。

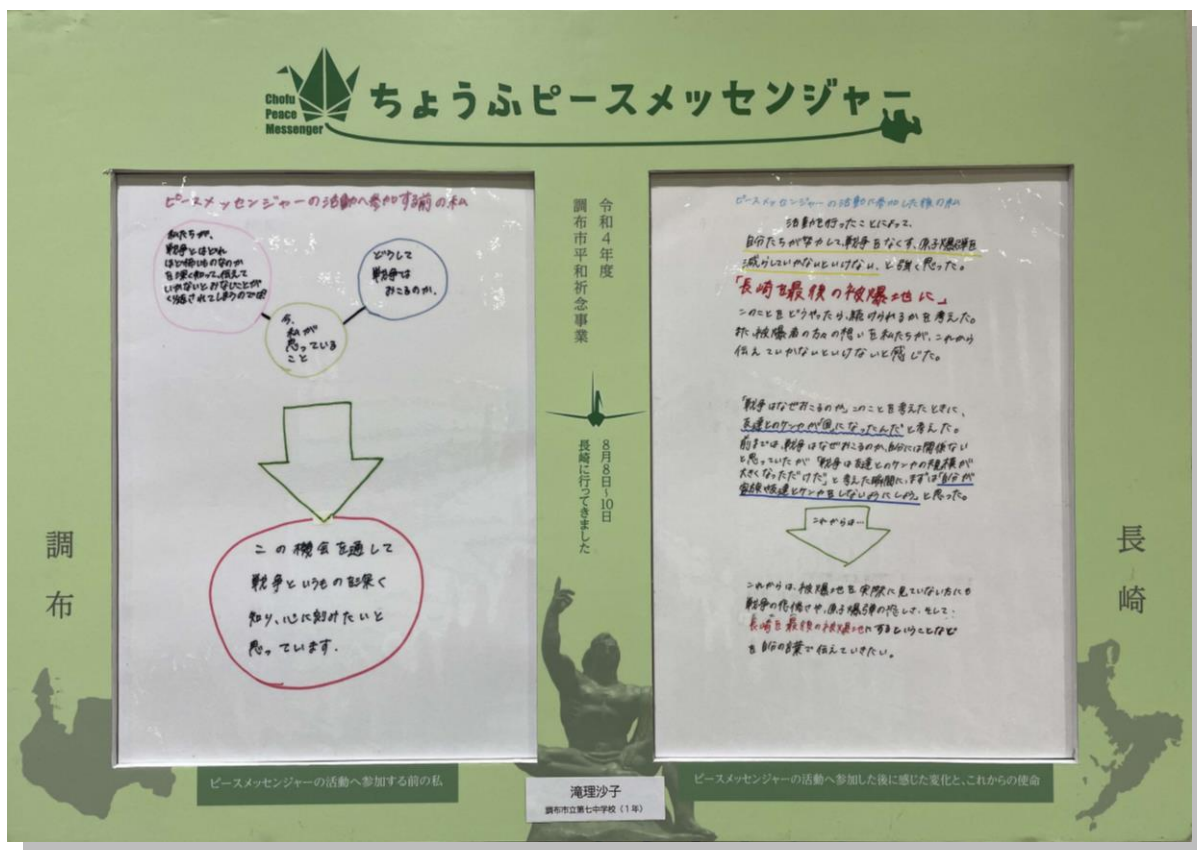
事前学習会や朗読会、講話では、当時の長崎の状況や被爆した重傷をおった人達についてを知れました。

実際に長崎に行って学んだことは、こわれた建物や、被爆した物、原爆についてのくわしい情報を見て、事前学習で知らなかったこと、現地に行って実際に見る、感じないと分からない、平和の大切さと原爆のすごい力を知ることができました。

私はピースメッセンジャーで学んだことを、原爆の悲惨さを知らない人や、自分に無関係だと思っている人に、原爆の恐ろしさや、平和の大切さを伝え、知ってもらいたいと思いました。

太期 詠子

晃華学園中学校（1年）



私がピースメッセンジャーの活動で学んだこと

滝理沙子

調布市立第七中学校（1年）

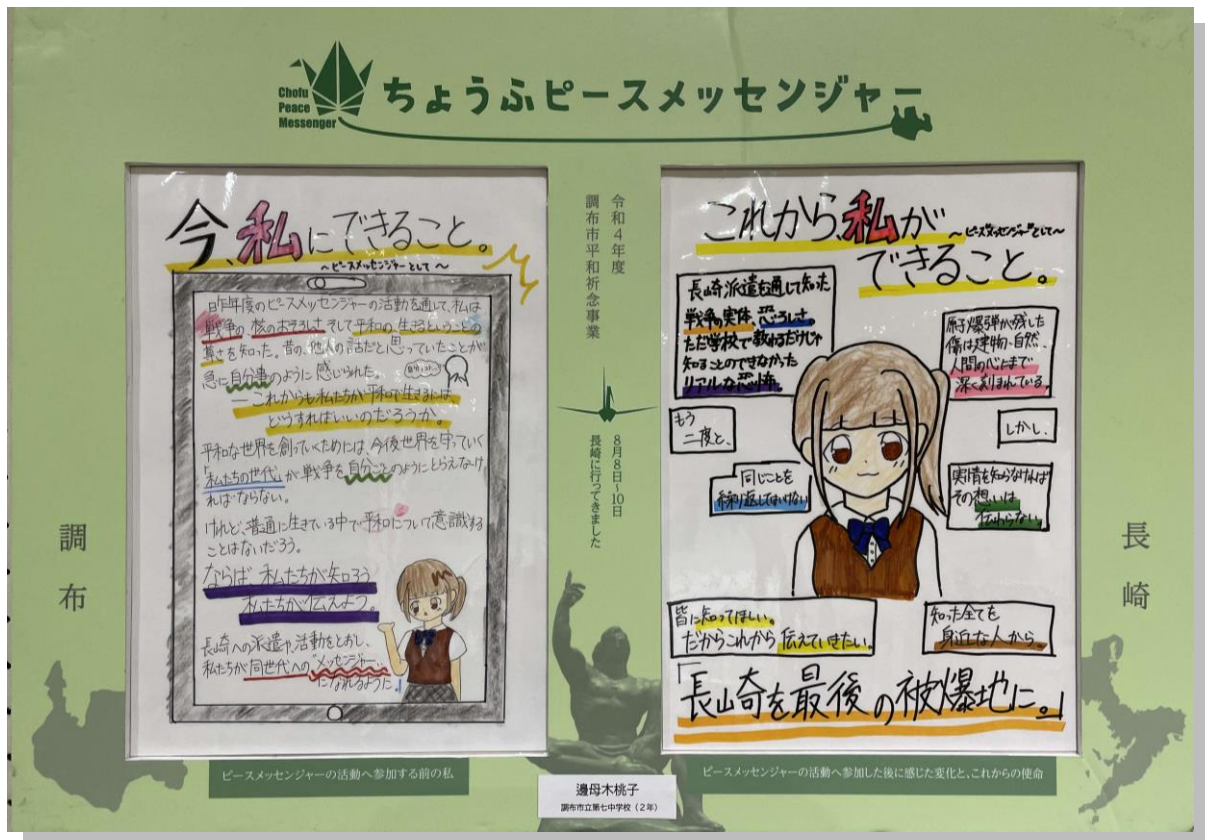
私は今までのピースメッセンジャーの活動で印象に残ったことが、三つあります。

一つ目は朗読発表です。発表までに練習を重ねていました。その練習をする時に、詩を書かれた方がどういう気持ちで書いたかとかどういう風景だったかとかを考えていたからです。

二つ目は長崎派遣の二日目の平和祈念式典に参列したときです。その式典で最初に被爆者の方々の合唱「もう二度と」の歌詞、「もう二度と作らないでわたしたち被爆者を」という歌詞が印象に残っています。被爆者の方々の思いがすごく伝わってきて、私たちが努力していこうと思いました。

三つ目はフィールドワークです。今まで、写真などで被爆したのを見たことがあったけれど、実際見ると写真ではわからない原爆の恐ろしさや生々しさがすごく伝わりました。

私は実際に長崎にっていない方などにこの原爆の恐ろしさを自分の言葉で伝えていきたいです。



未来へ平和を伝え続ける

長崎への派遣をとおり、私は数々のことを学びました。

長崎には戦争に関する遺跡や資料がたくさんありました。言葉だけで「戦争はだめだ」と聞いても今平和に過ごせているこの日本で想像するのは難しいかもしれません。しかし、資料一つ一つを自分の目で見るとき、実際の生々しさに衝撃を覚え、一気に自分事という印象になりました。

また訪れる各所で聞いた「長崎を最後の被爆地に」という言葉は私の中で最も心に残っています。戦争の被害の中でも原子爆弾の影響はすさまじくその実体は目を背けたくなるようなものばかりでした。

多くの人々が苦しみ悲しむ原因となってしまった原子爆弾ももう二度と使用してはいけません。

平和な国に生まれたことで戦争の悲劇を知らず、過激な言葉を使ったりすること多い私たちの世代やそれより下の世代の人々。そんな私たちが大人になる頃、戦争を実際に体験したという人はもういなくなってしまっているかもしれません。しかし、そこで戦争の怖さをわすれてしまえば、また同じあやまちを繰り返してしまうことがあるかもしれない。それは絶対にいけません。

もう一度、平和がどれだけ尊いものか考え直してほしい。知ってほしい。私たちピースメッセンジャーは未来の平和に向けてまずは身近な人からでも永遠に平和を伝え続けていきます。

邊母木桃子

調布市立第七中学校（2年）

第 2 部

活動報告

ちょうふピースメッセンジャー2022の平和活動
を2つのパートに分けて紹介します。

ピースメッセンジャーに任命されてから報告
会までの活動について紹介します。

令和4年 7月 3日(日)	任命式・事前学習会
7月10日(日)	第1回 朗読練習
7月17日(日)	第2回 朗読練習
7月23日(土)	第3回 朗読練習 「ナガサキ 映画と朗読プロジェクト」にて朗読発表
8月 4日(木)～ 5日(金)	調布市平和映画・講話・朗読会にて朗読発表
8月 6日(土) 9日(火) 15日(月)	防災行政無線での黙とう呼びかけ 広島原爆の日／長崎原爆の日／終戦記念日
8月 8日(月)～ 10日(水)	長崎派遣 平和関連施設見学／ピースフォーラムへの参加／折り鶴献納
8月15日(月)	第1回 事後学習会
9月 4日(日)	第2回 事後学習会
9月30日(金)～ 10月1日(土)	メッセージボード巡回展「つながる」 長野県立木島平村 木島平村中学校
10月8日(土)	メッセージボード巡回展「つながる」 NO PLANET,NO TOKYO 味の素スタジアム
11月 2日(水)～ 14日(月)	メッセージボード巡回展「つながる」 市民活動支援センター
11月25日(金)～ 12月 4日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 青少年ステーションCAPS
12月 6日(火)～ 9日(金)	メッセージボード巡回展「つながる」 文化会館たづくり 11 階 みんなの広場
12月11日(日)	ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニア合同報告会
12月13日(火)～ 19日(月)	メッセージボード巡回展「つながる」 文化会館たづくり 1 階ロビー
令和5年 1月 14日(土)～ 29日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 東部公民館
2月 1日(水)～ 12日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 北部公民館
2月15日(水)～ 26日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 西部公民館
3月 9日(木)～ 14日(火)	調布市平和展でのメッセージボード展示, 活動報告会
3月10日(金)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(東京都平和の日)
3月21日(火)～ 28日(火)	メッセージボード巡回展「つながる」 郷土博物館

Part1【学び】

市民の代表「ピースメッセンジャー」
として、様々なことを見て、聞いて
【学び】しました。

任命式

日時：令和4年7月3日（日）

午前9時30分～10時

場所：文化会館たづくり1001学習室

長友市長から“ちょうふピースメッセンジャー2022”に対し、調布市の代表としての心構えや平和学習への期待などの話とともに任命書が交付されました。

また、FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターと元FC東京の徳永悠平選手からの応援メッセージ動画を視聴しました。



事前学習会

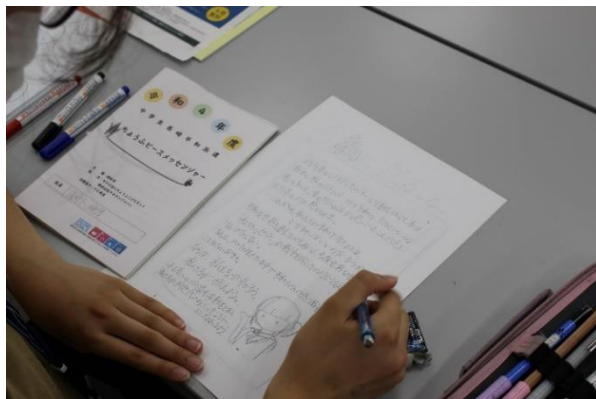
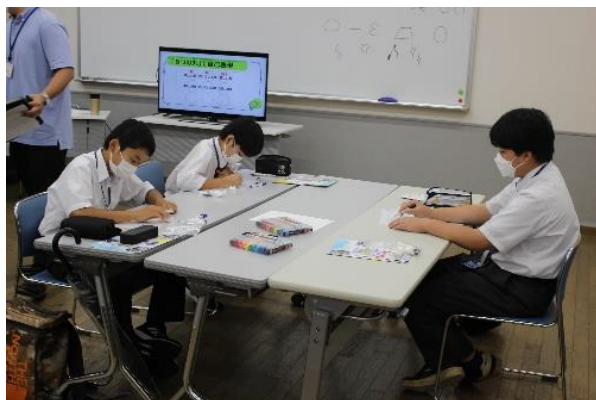
日時：令和4年7月3日（日）

午前10時30分～正午

場所：文化会館たづくり1001学習室

NPO法人ちょうふこどもネット協力のもと、「ピースメッセンジャーとしてどうなりたいか」を考えるワークショップを行いました。画用紙に絵を描き、自分を表現する練習をしました。

また、ピースメッセンジャーとしての意気込みや平和への想いを伝えるための「メッセージボード」の作成に取り組みました。一人ひとりの考えや気持ちを、自由に表現しました。



朗読練習

日時：第1回 令和4年7月10日（日）
午後1時～3時
第2回 令和4年7月17日（日）
午後1時～3時
第3回 令和4年7月23日（土）
午後1時～3時

「ナガサキ 映画と朗読プロジェクト」「調布市平和映画・講話・朗読会」に向けた朗読練習を行いました。俳優の松崎謙二氏指導のもと、広島と長崎への原爆投下に関する詩の朗読に取り組みました。



ナガサキ 映画と朗読プロジェクト 調布市平和映画・講話・朗読会

【ナガサキ 映画と朗読プロジェクト】

日時・場所：令和4年7月23日（土）午後3時30～4時
オンライン配信

長崎で開催されたイベント「ナガサキ 映画と朗読プロジェクト」にオンラインで参加し、朗読「ヒロシマ・ナガサキ」を発表しました。



【調布市平和映画・講話・朗読会】

日時・場所：令和4年8月4日（木）午後1時～4時30分
8月5日（金）午後1時～4時30分
文化会館たづくり映像シアター

長崎被爆家族証言者原田小鈴さん・晋之介さんの講話を聴講しました。その後、朗読「ヒロシマ・ナガサキ」の発表をしました。



長崎平和派遣 行程表

8月8日(月)調布駅に集合し、長崎へ行きました。青少年ピースフォーラムへの参加や平和祈念式典への参列を通して、平和について学びました。



令和4年 8月8日(月)

青少年ピースフォーラム参加
開会行事(被爆体験講話など)
フィールドワーク
キャンドル絵付け体験

1
日
目



令和4年 8月9日(火)

城山小学校平和祈念館見学
平和祈念式典参列
青少年ピースフォーラム参加
長崎原爆資料館見学

2
日
目



令和4年 8月10日(水)

平和案内人によるガイド
如己堂, 永井隆記念館, 浦上天主堂,
原爆中心地, 平和公園

折り鶴献納

3
日
目

青少年ピースフォーラム参加/開会行事(被爆体験講話など) フィールドワーク/キャンドル絵付け体験

全国の自治体から青少年が参加し、平和について学び、交流をする「青少年ピースフォーラム」に参加し、被爆体験講話の聴講やフィールドワークを実施しました。



羽田空港から長崎へ



ちょうふピースメッセンジャーから長崎の
ピースボランティアへメッセージカードを
渡しました。



青少年ピースフォーラム開会行事
被爆体験講話



長崎大学阪本キャンパス 献花台



二の鳥居・一本柱鳥居





旧長崎医科大学正門門柱



被爆クスノキ



キャンドル絵付け体験



令和4年9月24日開催「平和の灯」

被爆体験講話

講師 山田 一美さん

爆心地より2.3kmの路上で被爆。国民学校6年生の12歳でした。

ピースメッセンジャーはしっかりと山田さんの貴重なお話に耳を傾け、自分がもし同じ立場だったらと想像し、戦争や原爆の悲惨さについて考えました。

フィールドワーク

現地の高校生ピースボランティアに案内をしていただきながら、長崎大学阪本キャンパス、ニの鳥居、被爆クスノキを見学しました。

爆風により傾いた門柱や、左半分が吹き飛ばされた鳥居などを見て、原爆の威力、恐ろしさを改めて考えさせられる機会となりました。

キャンドル絵付け体験

原爆で亡くなられた多くの方を慰霊するため、キャンドルに平和への願いや絵を書き入れました。

絵付けしたキャンドルは9月24日に爆心地公園で開催された「平和の灯」で点灯されました。

長崎平和派遣 2日目

令和4年8月9日(火)

城山小学校平和祈念館見学/長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念 式典参列/青少年ピースフォーラム参加/長崎原爆資料館見学



城山小学校平和祈念館



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典



青少年ピースフォーラムでのグループワークの様子



青少年ピースフォーラムでは、10人ずつのグループに分かれて、「ケンカ・戦争は、なぜ起きるのか」「ケンカや戦争をなくすために、どうしたらいいか」を話し合いました。グループワークの後、「今の私にできること」を一人ひとりが考え、「my 平和宣言」として色紙に書きました。



グループワーク発表の様子



長崎原爆資料館を見学する様子



2日目の夜、宿泊先でミーティングを行いました。
2日間の学習を終えた今の気持ちや、ピースフォーラムのグループワークで出た意見、一人ひとりの「my 平和宣言」を発表しました。
その後、3日目に献納する千羽鶴の短冊に書くメッセージを皆で話し合いました。
短冊には、「平和な未来、伝える記憶」「伝えて繋げる。平和な未来、忘れてはいけない記憶」と記しました。

城山小学校平和祈念館

城山国民学校（現在の城山小学校）は爆心地から西方500mの場所にあり、最も爆心地に近い国民学校でした。被爆した旧校舎の一部を、貴重な被爆遺構として保存公開しています。

長崎原爆犠牲者慰霊 平和祈念式典への参列

原爆犠牲者の冥福を祈り、核兵器廃絶と恒久平和の実現を世界に祈るため、開催されました。ピースメッセンジャーは、調布市の代表として、平和公園に設けられた自治体席に着席し、黙とうを捧げました。

長崎原爆資料館

被爆資料や被爆の惨状を示す写真などの展示をはじめ、原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などの展示を行っています。

平和案内人によるガイド(永井隆記念館, 浦上天主堂, 原爆中心地, 平和公園) 長崎原爆資料館にて折り鶴献納



長崎市永井隆記念館



如己堂



浦上天主堂





原子爆弾落下中心地碑



被爆当時の地層



平和の泉



長崎原爆資料館にて折り鶴を献納する様子

永井隆記念館

医学博士・随筆家の永井隆氏の遺品や写真、直筆の書画等の展示をはじめ、年表や解説パネル、映像ソフトにより生涯と業績を紹介しています。

如己堂

永井隆氏のために建てられたわずか2畳の家。己の如く人を愛すという意味を込めて「如己堂」と命名しました。永井隆氏は白血病により寝たきりの状態で、原子病の研究と随筆活動を行いました。

浦上天主堂

浦上のカトリック信徒を中心に、30年の歳月をかけて赤煉瓦を一枚一枚積み上げて完成した教会です。爆心地から500mの位置にあり、わずかに赤煉瓦の堂壁を残して壊滅しました。

原子爆弾落下中心地碑

原爆中心地には原爆殉難者名奉安箱が置かれ、爆死された方、被爆者でその後亡くなられた方の氏名を奉安しています。

被爆当時の地層

原爆中心地にあたるこの地層には、原爆によって破壊された家の瓦や煉瓦、焼けた土や溶けたガラスなどが大量に埋没しており、被爆当時の悲惨な実相を示す資料として現地に保存されています。

平和の泉

水を求めながら亡くなった原爆犠牲者の冥福を祈り、昭和44年につくられました。被爆し水を求めてさまよった少女の手記を刻んだ石碑が正面に設置されています。

事後学習会

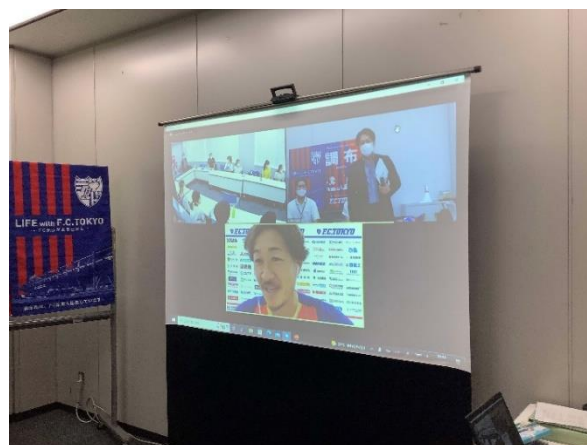
日時・場所：令和4年8月15日（月）午前10時～11時
オンライン

令和4年9月4日（日）午前10時～正午
文化会館たづくり1001学習室

ピースメッセンジャーとしてこれまで学んできたことを振り返り、これから市民の皆様へ広く発信していくためにメッセージボードを作成しました。

その後、ピースメッセンジャージュニアとそれぞれの活動の報告、意見交換などをしました。

※ピースメッセンジャージュニアについては47ページ～



Part2【発信】

それぞれが学んだこと感じたことを、
報告会やメッセージボードの展示等を通
して【発信】しました。

ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニア 合同報告会

日時:令和4年12月11日(日)

午前10時~正午

会場:文化会館たづくり 12 階大会議場

市長,教育長,議長,副議長へピースメッセンジャーの活動を通して学んだことや感じたことを報告しました。

ピースメッセンジャージュニアの活動にご協力いただいた,FC東京の石川直宏クラブコミュニケーター,渋谷不動産エージェントの渋谷社長にご出席いただきました。



報告会の内容

任命式・事前学習会

桐朋女子中学校2年の岡ななみです。

「いよいよ今日がはじまりだ。」

そう思って迎えた、任命式当日。これからどんな人と出会いどんなことが起こるのか。まだ何も知らなかった私たちは、全身の緊張がほぐれないまま任命式に臨みました。最初の長友市長のお話では、現在の世界情勢や平和について触れられていて、平和な世界の実現がどれだけ難しいか、深く考えさせられました。そのような中でも、私たちは平和を作り上げていく役割があるということを強く実感し、このピースメッセンジャーに選ばれたからには学びの多い活動をしようと、身の引き締まる思いで市長から任命書を受け取りました。そして各々の想いや意気込みを、1人ずつ発表しました。

その後は、事前学習会です。3人ずつ班に分かれてテーブルに座り、自己紹介をします。そして、紙に様々な表情の顔を描き、班のメンバーと見せ合うという遊びで盛り上がりました。話していくうちに、少し前までの緊張はどこかへいってしまい、自然と笑顔も出るようになっていました。これからこのメンバーと共に活動していける、という高揚感を胸に、この任命式、事前学習会の1日はあっという間に終わりました。

(岡 ななみ)

朗読練習・発表

第八中学校1年の金子真衣です。

私たちは「ナガサキ映画と朗読プロジェクト」と「調布市平和映画・講話・朗読会」で広島・長崎の原爆投下に関する詩を朗読しました。この作品は、ヒロシマ・ナガサキの原爆当時の町の様子、人々の様子が生々しく書かれています。最後は、自身が原爆被害にあわれ、今もお後遺症になやまされている福田須磨子さんの原爆や核兵器に対する思いが描かれている詩で終わります。読んでいて胸が痛くなるような内容ばかりですが、このような事実から目を背けずに発信していかなければいけない、と改めて感じました。

また、「調布市平和映画・講話・朗読会」では、被爆三世の方による講話も聞きました。1945年ヒロシマとナガサキで2度の被爆を経験した二重被爆者の山口彊(つとむ)さんが語り継いできた当時のお話をご家族から紙芝居や動画をとおしてお伝えいただきました。戦争を決して忘れてはいけない。そんな思いが伝わってきました。最近では、山口さんのように二重被爆された方がご高齢となり、語り部も減ってきています。そんな中、伝えていかなければいけないと活動する人たちの大切さ、その人たちの話を聞いて、知ろうとすることの大切さを学びました。

(金子 真衣)

長崎派遣1日目

桐朋女子中学校3年の工藤海寿寿です。

長崎派遣1日目、私たちちょうふピースメッセンジャーは八月八日の朝早くに調布市役所前に集合して羽田空港へ向かいました。お昼前には長崎に到着して、大村名物角寿司をいただきました。その後、原爆資料館と隣り合っている施設で青少年ピースフォーラムに参加しました。開会行事を行うホールに入ったとき、私はこんなにもたくさんの人がいると思わなかったのが、驚きました。被爆体験講話をしてくださった山田一美さんは、当時私たちよりも幼い十二歳だったそうです。山田さんは、被爆したとき、家の近くにいたそうです。山田さんは無事だったものの、近くの川で泳いでいた友人は亡くなったそうです。山田さんは、被爆した瞬間、本当は一瞬だったが、熱さをものすごく長く感じたとおっしゃっていました。しばらくすると、爆心地から被爆した方たちが歩いてきたそうです。歩いてきた人たちは、大きなやけどを負っていたり、目がなく、人の肩を借りて歩いていたりしたそうです。私はこの状況を被爆された方から実際に聞くことによってどんなに恐ろしくても、本当にあったことだと身に染みて感じるができると思いました。山田さんは最後の学生からの質問に対して、戦争だけはしてはいけない。武力で解決ではなく話し合いで解決を。話し合いで解決する指導者を、民主主義なので決められる。とおっしゃっていました。私は今考えると、山田さんのお話を聞いたことが、長崎に行く前の原爆に対する考え方が変わる最初のきっかけになったと思います。

私たちは自分たちの目で被爆した建造物を見るためにフィールドワークを行いました。案内をしてくださった方々は私たちとあまり年齢の変わらない長崎の高校生の方々でした。長崎大学のキャンパスの中にある、ゲストハウス、配電室として使われている建物、爆風によって片方の柱が浮いている旧正門門柱、長崎医科大学付属医院、爆風によって二本に分かれ、台と柱がずれてしまっている一本柱鳥居、被爆して幹に穴が開いても、芽を出した被爆クスノキなどを自分たちの目でみて、触って、爆風の強さや原爆の熱さを感じました。私が最も記憶に残ったものは、二の鳥居、一本柱鳥居です。一本柱鳥居があるのは少し急な階段を上ったところでした。八日の長崎はとてもよく晴れていて、階段を上ったところで写真を撮りたくなるほど景色がきれいでした。案内をしてくださった方によると、柱に彫られていた名前が溶けて読みづらくなっていると教えてくれました。近くでよく見てみると、だいぶ溝が浅くなり、触ってみると彫られていない部分とほとんど同じくらいの深さになっていました。私は一本柱鳥居に触って、いかに原爆が恐ろしいものかを感じることができました。フィールドワークの後に私たちはキャンドルに絵付けをしました。私はキャンドルに平和への思いや、絵をかきました。

(工藤 海寿寿)

長崎派遣2日目

第四中学校1年の久保田輝汰です。

長崎派遣二日目はホテルから公共交通機関を使い、城山小学校平和祈念館にいき、平和祈念式典に参列しました。その後平和公園近くで長崎の郷土料理、皿うどんをいただきました。

そして青少年ピースフォーラムに参加し長崎原爆資料館に行った後ホテルでミーティングを行いました。

平和祈念式典では、一つ一つ話をしっかり聞き、心に刻める体験になりました。

青少年ピースフォーラムでは他の県から派遣された方々と交流を深めました。福島や沖縄などからも来ていて、もうできないような貴重な体験ができました。

この交流では喧嘩・戦争の原因は何なのか。喧嘩・戦争をなくすにはどうしたらよいかなどをチームにわかれて話し合い、お互いの意見を言い合いました。「お互いの意見が食い違う」ということもありましたが、あらためてお互いの意見も尊重しなければならぬ大切さを感じました。

この交流を通して、自分の意見は言ってもデメリットがないから、しっかり言った方がいいこと。一人一人色々な平和があることを学びました。

その後平和への思いを一人一人色紙に書きました。僕は「一人一人の平和を保つ」という思いを色紙に書きました。

長崎原爆資料館では当時のまま残っているものなどがありました。なかには、原爆がおこる前と、おこった後を比べた写真や、被害を受けた人の体の写真など目をつぶりたくなる物もたくさんありました。

他にも、原子爆弾によって溶けてしまった瓶や、爆心地より約800メートル離れた神社の近くの民家にあった、爆発の時刻11時2分を指している柱時計があり、原爆の規模を感じさせられました。

ホテルでのミーティングでは、青少年ピースフォーラムで書いた、平和への思いを共有した後、献納用の鶴にのせる思いをみんなで考え、鶴に書きました。

(久保田 輝汰)

長崎派遣3日目

晃華学園中学校1年の斉藤莉梨奈です。

長崎に降り立ってから3日が経ちました。3日間お世話になったホテルを後に、平和公園へ向かいます。平和公園では、折り鶴を献納しました。この折り鶴は、調布市民の方々が一つ一つにそれぞれの思いを込めて作って下さったものです。たくさんの思いの詰まった折り鶴がたくさん集まりました。私達ピースメッセンジャーは、この折り鶴によって、戦争で亡くなられた方々を悔やみ、もう二度とあのような惨禍が起きないようにと心より祈りながら献納しました。

そして、平和案内人の方によるガイドにより、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂、原爆中心地、そして平和公園を見学しました。どの施設も原爆との関連を学び、肌で感じる事ができ、貴重な体験ができました。その中でも、私が特に興味を持ったのは「永井隆記念館」です。永井博士は、内科医を志望していました。しかし、中耳炎を患ってしまい、右耳が不自由になってしまいました。内科医への道は諦め、放射線医学を専攻するようになりました。さらには戦時中、放射線の浴びすぎで、白血病も発症してしまい余命宣告も受けました。原爆投下後、妻の緑さんが亡くなり、永井博士も重傷を負いましたが、多くの人々を助けたいという思いで手当に当たっていました。永井博士は著書の中で「原子力は平和利用するべき。戦争は反対」と語っていました。今日、戦争、被爆経験者が少なくなってきた中、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝承していくことがいかに大切であるかということを実感しました。そして、もう二度とあのような悲劇を起こさないことが重要だと、心に刻みました。この思いを、調布市民だけでなく、世界中の人々に伝えられたら良いなと思っています。その後、長崎市内にて長崎名物トルコライスを食べました。とてもボリュームがあり、美味しくいただきました。平和の大切さと共に、長崎の食にも触れることができ、良い経験になりました。

3日間を通じて、平和への思いと共に帰路に着きました。

(斉藤 莉梨奈)

事後学習会

第五中学校1年の笹生優奈です。

私たちピースメッセンジャー参加者は、8月15日と9月4日に事後学習会を行いました。8月はZOOMでオンラインでの意見交流と長崎派遣を振り返り、9月はたづくに皆んなで集まって事前学習会でも作成したメッセージボードを完成させました。事後学習会では現地に行って思ったこと、感じたこと、学んだことを整理し、それをまとめてメッセージボードに反映していきました。それぞれが一番印象に残っていることや、自分が伝えていきたいこと、長崎派遣前後での心境の変化などを改めて振り返りました。メッセージボードには事前に思ったことも、事後に思ったことも反映されているので、皆の心境の変化が現れているのも興味深かったです。そしてピースメッセンジャージュニアやFC東京の皆さんとも交流を行いました。ジュニアの皆さんには今後も興味を持ち続けて、我々のようにピースメッセンジャーとして是非参加して欲しいと思います。またFC東京の皆さんのような影響力のあるスポーツ選手が平和活動しているのも大変ありがたいことだなと思いました。この事後学習会を行うことで、仲間の皆から色々な意見や体験を共有することで、自分では考えられなかった意見や考え方を知り、視野を広げることが出来ました。また振り返ることで自分の中でも平和に対する理解や思いが深まったので、有意義な時間だったと思います。この貴重な経験をただの思い出に終わらせることなく、今後も平和やSDGsなど、様々な社会問題に興味を持ち続けていきたいと思っています。

(笹生優奈)

メッセージボード巡回展「つながる」

ピースメッセンジャー2022とピースメッセンジャージュニア2022の平和への想いが込められたメッセージボードを、イベントや市内各施設等で順次展示しました。

令和4年9月30日(金)～10月1日(土)

姉妹都市長野県木島平村
木島平中学校「けやき祭」



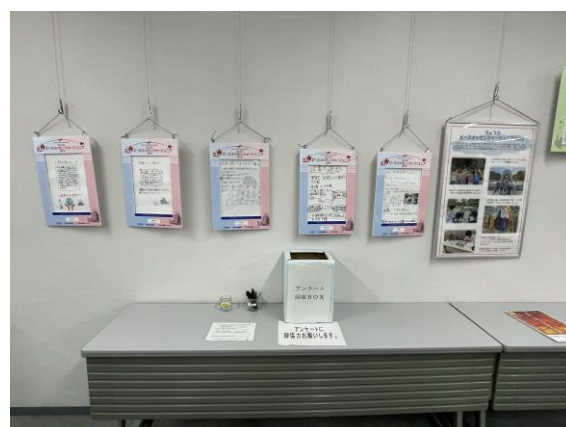
令和4年10月8日(土)

FC 東京イベント
「NO PLANET, NO TOKYO」



令和4年11月2日(水)～11月14日(月)

市民活動支援センター



令和4年11月25日(金)~12月4日(日)



青少年ステーション CAPS



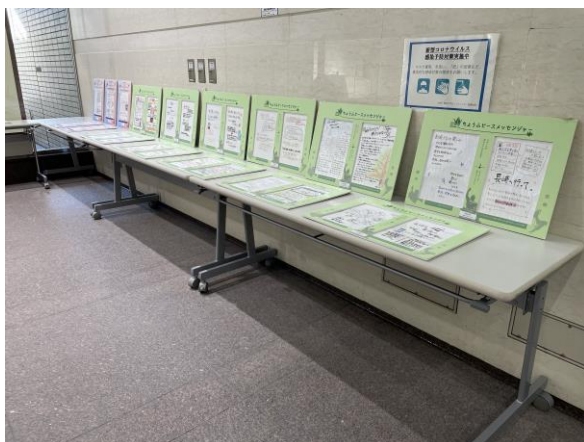
令和4年12月6日(火)~9日(金)



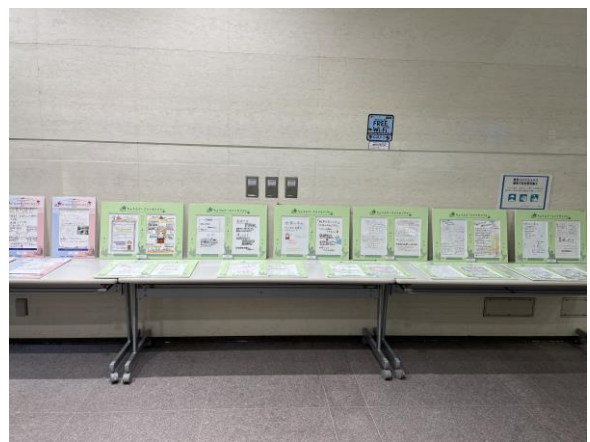
文化会館たづくり11階 みんなの広場



令和4年12月13日(火)~19日(月)



文化会館たづくり1階 ロビー



令和5年1月14日(土)~29日(日)



東部公民館



令和5年2月1日(水)~12日(日)



北部公民館



令和5年2月15日(水)~26日(日)



西部公民館



令和5年3月21日(火)~28日(火)



郷土博物館

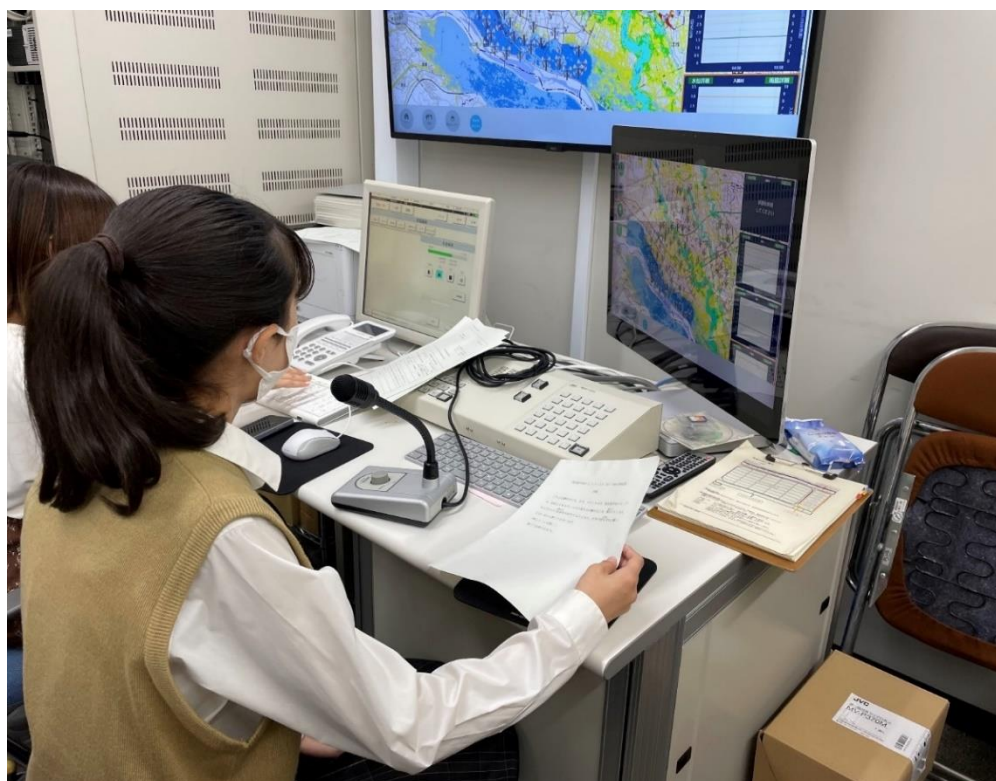


平和祈念事業

調布市は、毎年様々な平和祈念事業を行っています。
ちょうふピースメッセンジャー2022も平和祈念事業へ
参加しました。

黙とうの呼びかけ

8月6日（広島原爆の日）、9日（長崎原爆の日）、15日（終戦記念日）、3月10日（東京都平和の日）に戦争で亡くなった方のご冥福と、世界の恒久平和の実現を祈念するために防災行政無線で黙とうを呼びかけています。令和4年度は、ピースメッセンジャーが黙とうの呼びかけを行いました。



折り鶴でつくるカラフルアート ～親子で平和なひとときを～

日時：令和5年1月21日（土）

午後2時～4時

場所：東部公民館 学習室

主催：東部公民館

ピースメッセンジャーによる朗読「おりづるの旅～さだこの祈りをのせて～」を発表した後、折り鶴プロジェクトで集まった折り鶴を使って、イベント参加者とピースメッセンジャーでアートを作成しました。完成したアートは被爆地へ献納します。



調布市平和展

日程：令和5年3月9日（木）～14日（火）

場所：文化会館たづくり南ギャラリー

戦争による被害の実相や次代を担う子どもたちの平和への想いなど、様々な角度から戦争・平和について学び、考える機会とするため「調布市平和展」を開催しました。

長崎市からお借りした被爆資料や、ピースメッセンジャー2022のメッセージボード等の展示をしました。

また、3月11日（土）にピースメッセンジャーによる活動報告会と調布市原爆被害者の会による講話を実施しました。



第 3 部

ピースメッセンジャー ジュニアの取組

FC東京との連携により市内在住又
は在学の小学生をピースメッセンジャー
ジュニアとして広島へ派遣しました。

ちょうふピースメッセンジャージュニア2022

紹介

市内在住又は在学の小学生5人が“ちょうふピースメッセンジャージュニア2022”として活動しました。



一宮 健人	(いちのみや けんと)	成蹊小学校 (5年)
唐木 宏之介	(からき こうのすけ)	調布市立第一小学校 (6年)
川口 継人	(かわぐち けいと)	調布市立緑ヶ丘小学校 (6年)
齋藤 悠衣	(さいとう ゆい)	調布市立飛田給小学校 (6年)
森川 桃子彩	(もりかわ もこあ)	調布市立飛田給小学校 (6年)

五十音順

本事業は調布市・FC東京・(株)渋谷不動産エージェントの連携により実施しました。

ピースメッセンジャージュニアの活動

7月30日(土)に実施されたFC東京VSサンフレッチェ広島のピースマッチにあわせて、市内在住又は在学の小学生5人を“ピースメッセンジャージュニア”として広島へ派遣し、戦争・平和に関する学習を行いました。市内では長崎派遣に参加したピースメッセンジャー2022と交流をしました。

団結式



7月23日(土),ピースメッセンジャージュニアが集まり団結式を行いました。
ピースメッセンジャーからピースメッセンジャージュニアへ広島に献納するための鶴が託されました。

広島派遣1日目



7月30日(土),広島へ出発

現地でFC東京の石川直宏クラブコミュニケーターと合流し、一緒に平和記念公園を見学しました。



サンフレッチェ広島にご協力いただき、試合開始前の選手のウォーミングアップを見学させていただきました。

FC東京VSサンフレッチェ広島のピースマッチはFC東京が劇的な逆転勝利を収めました。

広島派遣2日目



現地のガイドに案内をしていただき、平和記念公園・原爆資料館を見学しました。



平和への想いを込めた折り鶴を平和記念公園に献納しました。

事後学習会



派遣後は長崎平和派遣に参加したピースメッセンジャーと合同で事後学習会を行い、メッセージボードの作成や派遣の報告を行いました。FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターにオンラインでご参加いただきました。

ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニア合同報告会

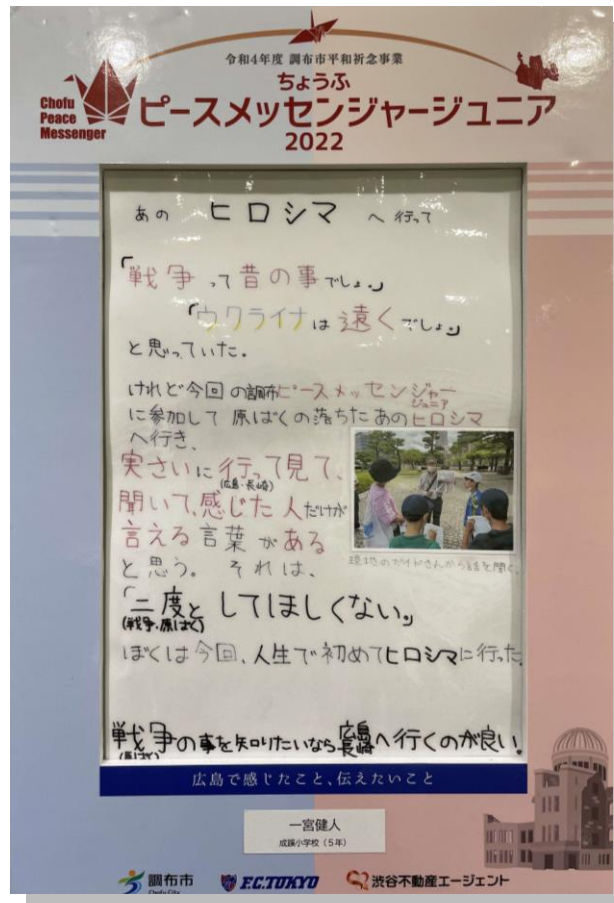


広島派遣を通して学んだことや平和への想いを一人ずつ発表しました。本事業をサポートしていただいた、FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターと（株）渋谷不動産エージェントの渋谷社長から講評をいただきました。

ピースメッセンジャージュニアの 感想文

ピースメッセンジャージュニア一人ひとり
の「感想文」と平和への想いをまとめた
「メッセージボード」を紹介します。

ピースメッセンジャージュニアが作成した原文のまま掲載しています。



ぼくに強い思いをくれたヒロシマ

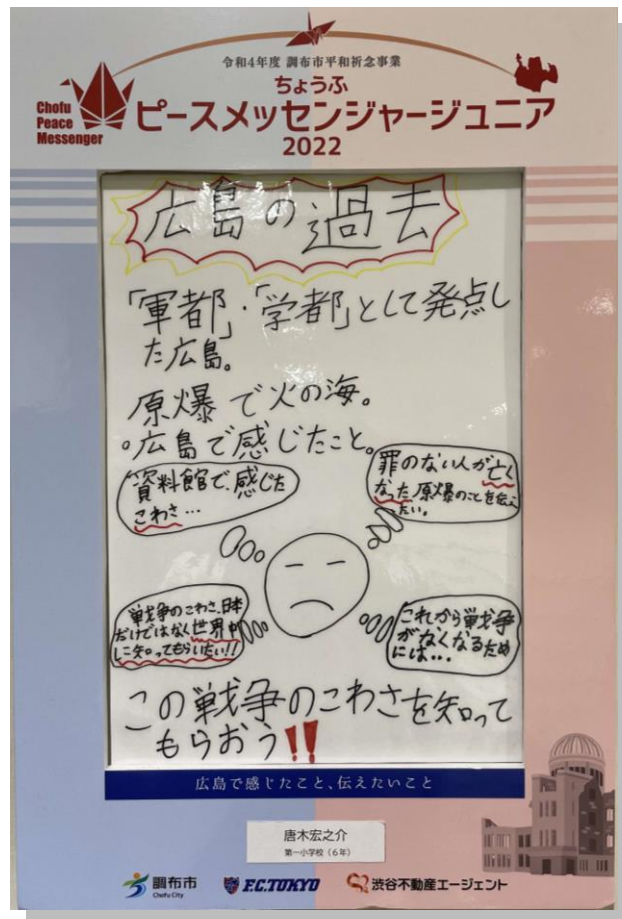
原ばくがどんな物なのかもよく知らなかったぼくがなんでここまでくわしくなったのだろうか。それは今回の「ちようふピースメッセンジャージュニア」のおかげだから。ぼくは広島へ行き、たくさんの事を知りました。戦争や原ばくの話は何度も聞いた事があるけれど、実さいに現地へ行き、その地を足で歩き、自分の目で見ると、話が聞くよりもっともっと分かりました。平和記念資料館でビリビリになった服や病んでいる人の写真などを見て、心のそこからその時のアメリカにおこり、原子力を二度と争いに使えな!という強い思いがでてきました。

原ばくなど使わなければあの14万人はゆたかにくらせたのに。

今も争いで原子力が使われようとしています。ぼくは広島の子供たちを見たと、言います。争いで原子力を使うことはいけません。

一宮健人

成蹊小学校(5年)



ピースメッセンジャージュニアとして

唐木 宏之介

調布市立第一小学校（6年）

僕は、ちようふピースメッセンジャージュニアとして、広島に行ってきました。広島に行く前では、どこことなく、サッカーのことを考えてました。でも、最初に、平和記念公園に行くと、最初に目にしたのは、原爆ドームが、目に、入りました。学校の教科書などの写真では、ちがう大きなはく力を感じました。見た目は、ボロボロひびが入ってもう今でも、くずれるのではないかと、まどはないし、入口はあっても、ドアがない。そういう感じでした。そして、平和記念公園をまわっていると、原爆の子の像がありました。大きなつるをかかえ立っている少女の像。後ろには、千羽づるがいっぱいガラスケースの中にしまっていました。

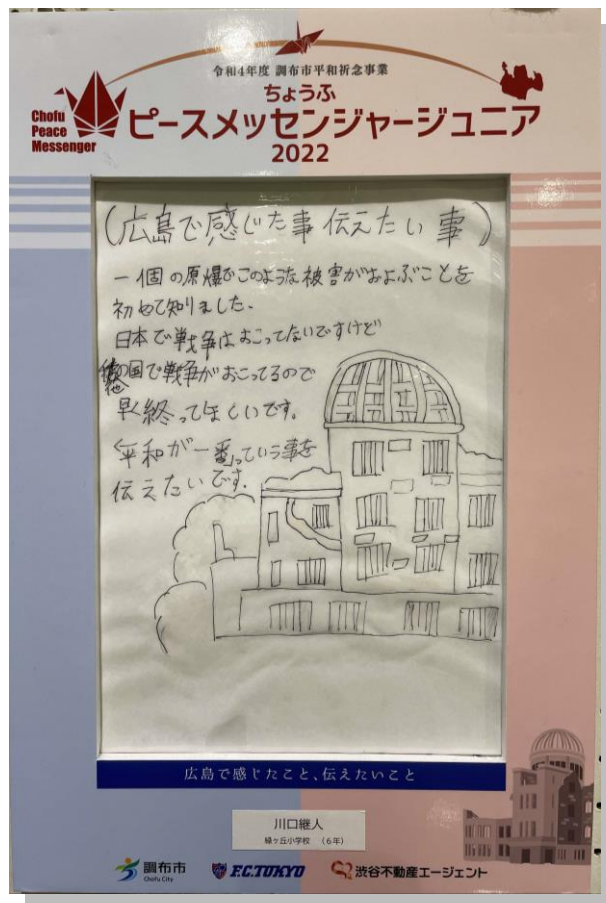
2日目は、最初に、平和記念公園で、ボランティアのガイドさんに、話をうかがいました。その話では、爆心地と、広島歴史、原爆について、お話を聞いた。そして、爆心地である。原爆ドームと、もう一つの、レストハウスだった。それを聞いたときに、おどろきました。なぜなら、原爆ドームを爆心地と思っていたので、もう一つあるとは、思いもよりませんでした。そしてそのレストハウスが、平和記念公園にあるというので、行ってみると、一階は、ふつうのおみやげ屋さん。でも、地下一階では、きせきがおきたという。月曜日（8月6日）に、会議が行われていて、野村英三さんは、しよるいをわすれて、地下にもどったという。



もどって、しるいをさがしていたら、原爆がおちてきた。そのレストハウスにいた、三十二人の中の一人、野村英三さんが、生きのこったという。その話を聞いて、まずは本当にきせきだと、思った。そんなことはふつうにない。原爆が、予想できた人はいないのにも、かかわらず、たまたま地下に行って助かった。というのが本当にすごいです。その次に、資料館に、行きました。資料館では、ものすごく悲しい、つらい思いがたくさん感じられ、すごくとりはだか、たちました。そこで、原爆のい力、その後の病き、その時の、子供達の思いが、感じられました。

やけどした人の写真、とうじきていた服、その時の様子をあらわした絵、それはとてつもなく、残こくなものであり、とても、平和への思いが、とても伝わった資料館でした。

広島で体験した平和への思い。二度と戦争をしてはいけないという思い。今、ロシアとウクライナでの戦争のことが、だんだん分かってきたような気がします。最後に、ピースメッセンジャージュニアとして、広島で学んだことを、持ち帰り、日本中に、全世界に、平和の大切さ、平和への思いをとどけたいです。



ピースメッセンジャーの活動を通して学んだ事感じた事

川口

継人

調布市立緑ヶ丘小学校(6年)

昔、おそろしい爆弾が日本の広島と長崎に落とされた事をピースメッセンジャージュニアの活動で初めて知りました。

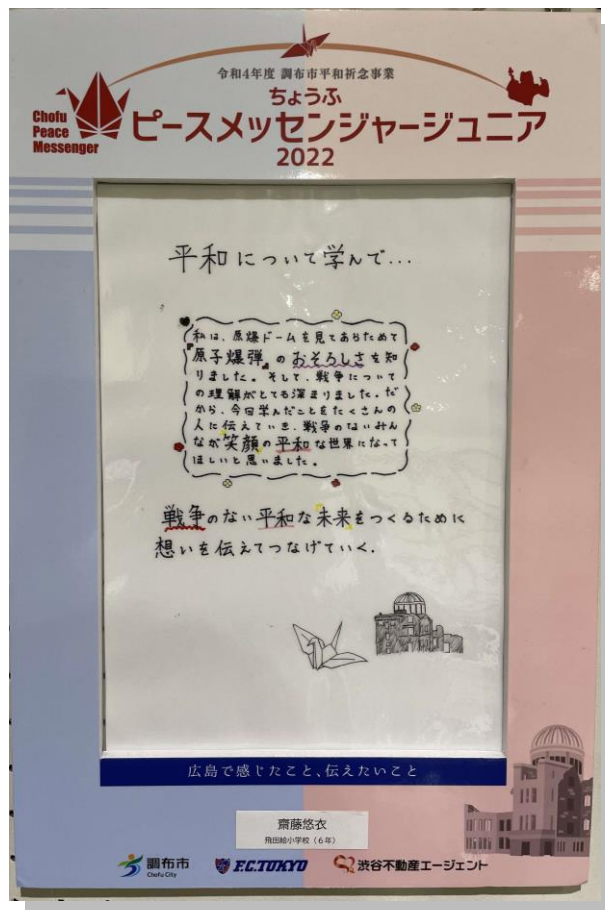
そしてぼくは、それをとてもおそろしい事だと思いました。

理由は、一個の爆弾によって三十一万九千八百八十六人の人が亡くなった怖さと一個の爆弾で黒い雨のきょうふさを知ったからです。

黒い雨とは、爆弾でおこる、大粒の雨で放射性降下物が入っていてそれをあびると死んでしまうのです。

もうひとつ、平和記念公園でも、おそろしい事を感じました。例えば、目が飛び出た絵や全身に大火傷をおった写真、川に飛びこむ大勢の人達の絵を見た事や原爆ドームを見た時は一個の爆弾で丈夫そうな、建物が簡単にこわされるんだなと思いました。

ぼくが学んだ事は、戦争のおそろしさです。理由は、一回の戦で多くの人達の命がうばわれる怖さと次々に戦争の場所に行かなきゃだめな、罪のない人達がいる事を学びました。だから、今起こっている、ウクライナとロシアの戦争がなくなしてほしいと思いました。



広島に行って思ったこと、感じたこと

私が広島に行って思ったこと、感じたことは2点あります。

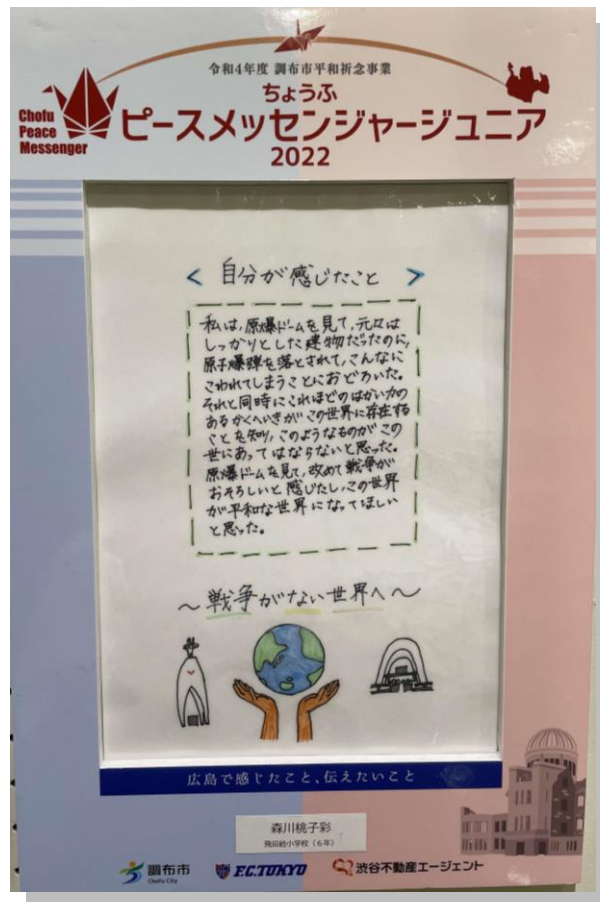
1点目は、1日目に見に行ったサッカーの試合のことです。私は、初めて生で見ました。ゴールをきめたときに周りの人と喜ぶことができてとても楽しかったです。このように楽しんだり、喜び合うことができるのは平和があるからだと思えました。

2点目は、原爆ドームを見たことです。原爆ドームはテレビなどで見るよりも迫力がすごかったです。原爆が落ちてくる時の怖さがすごく伝わってきました。今平和でいられるのがどれだけありがたいか考えられました。

私は、広島に行って原爆ドームを見たりサッカー観戦ができて良かったです。と思いました。

齋藤悠衣

調布市立飛田給小学校(6年)



広島に行った感想

森川桃子彩

調布市立飛田給小学校(6年)

「大きい……」私が最初に原爆ドームを見て思った感想です。

テレビでは小さく見えたけど、実際はかなり大きくて、少し怖かったです。こんなに大きい建物が原爆を投下されても残っていることにおどろきました。

人が核兵器を作り、人が使い、人を殺す。そのようなことがこの世界にあってはならないと思います。そんなことをしても、命がうばわれ、建物がこわれ、人々が病気になる。だれが幸せになり、喜ぶのか?と思いました。

広島に行かなかったらこの夏、平和や戦争について考えなかったので、広島に来てよかったです。

私は77年前のことを忘れてはいけないと思います。そして、しっかりとこれからも平和について学んで知らない人に伝えこの原爆が投下されたことを知ってほしいです。

第4部

自主活動

ピースメッセンジャーやピースメッセンジャー
ジュニアは、学校での報告や自主学習として積
極的に【発信】しています。

【ピースメッセンジャー2021】太期 結子・村上 葉

【ピースメッセンジャー2021】阿部 咲生奈

【ピースメッセンジャージュニア2022】一宮 健人

【ピースメッセンジャージュニア2022】唐木 宏之介

ピースメッセンジャー2021

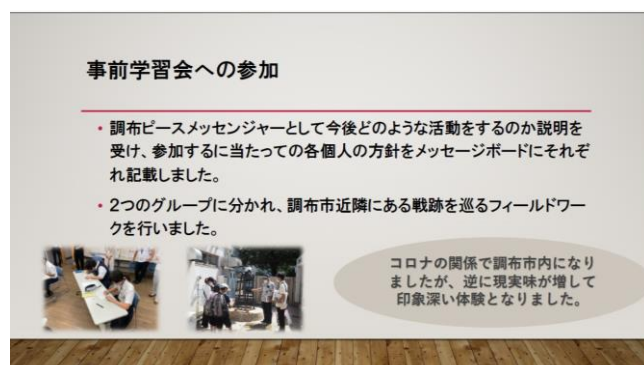
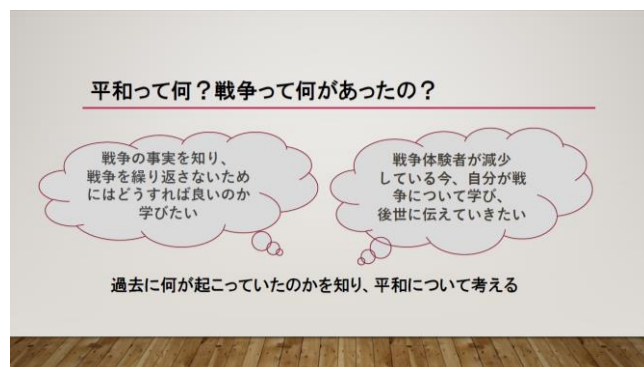
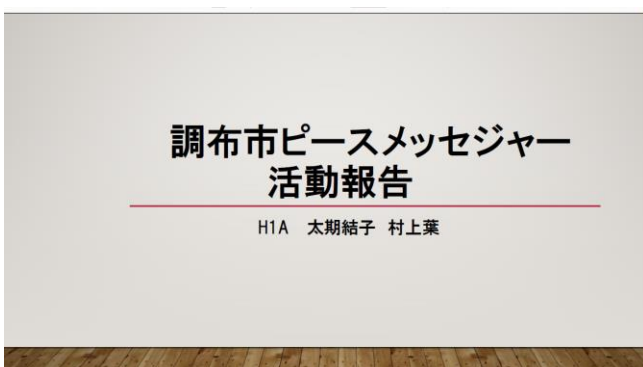
太期 結子・村上 葉



体育館にて発表の様子

令和3年度に、ピースメッセンジャー2021として活動した成果を、晃華学園高等学校の生徒活動報告会で発表しました。

発表で使用したスライドショー



フィールドワーク

- 事前学習会を通して、2グループに分かれてそれぞれ資料や写真をもとにポスターを完成させました。
- 同年代のメッセンジャー達との交流を深める、とても有意義な時間となりました。



お互いにポスターの構成を考えつつ、意見を交わし合う楽しさは唯一無二の経験！

朗読練習への参加

Read me !



- 平和映画・朗読会に向けて、朗読練習サポーターの方にアドバイスを頂きつつ、台本の自分の担当箇所の練習や全体の流れなどを確認しました。
- 本書の立ち位置の確認や入りのタイミングなど、朗読会に向けた細かいアドバイスも頂きました。

朗読という行為は、時には聞き手よりも読み手を驚かせる力があると思いました。

平和映画・朗読会

- 8月3日の文化会館たづくり映像シアターで来場者の前で朗読発表を行いました。
- 8月4日の文化会館たづくりくすのきホールでも発表を行いました。また、被曝体験伝承及び家族証言の講話も聞き、学習を深めました。

感情を込めて朗読していると、ただ受け身で話を聞くときよりもより理解を深められる。



FC東京石川直宏クラブコミュニケーターとの意見交換会

- FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターに朗読発表を鑑賞していただいた後、平和についての意見交換を行いました。
- 石川さんには「仲間」や「絆」などをキーワードとした、ご自身の経験も踏まえた平和への想いを語っていただきました。

自分の想いを「漢字一文字」で表す、というのが難しかったです



青少年ピースフォーラムへの参加

- 令和3年8月8日(日)9日(月)に、青少年ピースフォーラムにオンラインで参加しました。
- 長崎の被爆者の方のお話や、残っている被爆遺跡などから被爆の実像について学び、全国の参加者と意見交換を行いました。



調布平和の祭典への参加

- 令和3年8月14日(土)に開催された、調布平和の祭典に参加しました。
- 令和元年度ピースメッセンジャーのメンバーと共に、活動報告や参加者との意見交換、非核平和都市宣言・国際平和都市宣言の朗読を行いました。



防災行政無線での黙祷の呼びかけ

- 8月6日(広島原爆の日)、8月9日(長崎原爆の日)、8月15日(終戦記念日)、3月10日(東京都平和の日)に、戦争で亡くなった方々のご冥福と、世界の恒久平和の実現をお祈りすることを呼びかけるために、防災行政無線で黙祷の呼びかけを行いました。
- ピースメッセンジャーの声が調布市に流れ、住民の皆さんに黙祷を呼びかけました。



市役所で初めての収録。たくさんの機材や大人に囲まれ、緊張しながら収録しました

戦争体験映像記録の撮影

- 戦争を体験した方々のお話を映像で記録する「戦争体験映像記録」の撮影を行いました。
- ピースメッセンジャーがインタビュアーとなり、2名の調布市在住の戦争体験者の方に、当時のお話を聞いたり、質問に答えていただいたりしました。

“自分と同じ思いをもう誰にもして欲しくない”という想いが強く伝わってきました

市特別職の方への報告会

- 調布市長、教育長に向けて、これまでの活動報告を行いました。
- FC東京の石川クラブコミュニケーターからビデオメッセージをいただきました。



Let's think !

皆さんも是非平和について考えてみてください！

ピースメッセンジャー2021

阿部 咲生奈

令和3年度に、ピースメッセンジャー2021として活動した成果と平和への想いが佼成女子学園ホームページに掲載されています。

【阿部さんの感想文】

私は、これまで学校等で戦争や原爆について学んだことに加え、このピースメッセンジャーに参加して、被爆者の方のお話を聞いたり、戦争跡地を見学する中で、実際はどれだけ大変な様子だったのか知ることができ、また戦争はなぜ起きたのかと深く考えさせられました。コロナウイルスの影響で残念ながら長崎には行けませんでした。広島や長崎といった有名な原爆投下地ではなくても、調布飛行場周辺の身近な地域に戦争の傷跡が残っていることを知り、この地域での戦争の被害や戦時下での状況を学ぶことができました。

これはピースメッセンジャーでの活動に参加しなければ学ぶことができませんでした。改めて戦争の怖さ、そして大切な人を失ったり傷つけたりして、悲しみしか生まないことを痛感し、世界中の人が平和な世の中で過ごせるよう、ピースメッセンジャーとして今回の学びを伝えていきたいと思います。



佼成女子学園ホームページ

ピースメッセンジャージュニア2022

一宮 健人

ピースメッセンジャージュニアとして広島派遣で学んだことを壁新聞にまとめ、発信しました。



ピースメッセンジャージュニア2022

唐木 宏之介

ピースメッセンジャージュニアとして広島派遣で学んだことを動画でまとめ、発信しました。



動画 QR コード

第 5 部

資料

ピースメッセンジャーの取組以外にも市では平和に向けた様々な取組を行っています。

折り鶴プロジェクト

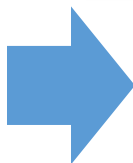
調布市は「折り鶴プロジェクト」として、市民の皆さんが平和への想いを込めて折った折り鶴を被爆地に献納する取組を行っています。

令和4年度は、市内の中学生に御協力いただき、合計で**約9500羽**の折り鶴が集まりました。

集まった折り鶴は、ちょうふピースメッセンジャー2022が長崎へ、ちょうふピースメッセンジャージュニア2022が広島へ献納しました。

たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

長崎派遣



広島派遣



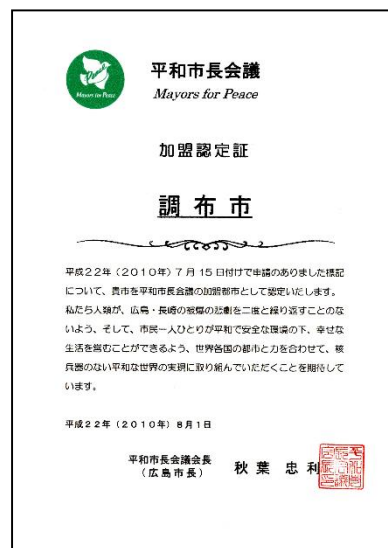
●これまでご協力いただいた折り鶴の数●

令和3年度	約1万8500羽(市内中学校で実施)
令和2年度	約7900羽(市内中学校で実施)
令和元年度	約2万2080羽(市内公共施設, 中学校, 平和イベント等で実施) 広島市へ献納
平成30年度	1725羽(原爆展内で実施) 過年度分と合わせて長崎市へ献納
平成29年度	385羽(原爆展内で実施) 過年度分と合わせて広島市へ献納
平成28年度	535羽(平和展内で実施)
平成27年度	4万7518羽(平和祈念事業内で実施) 広島市へ献納

へいわしゅちょうかいぎ 平和首長会議

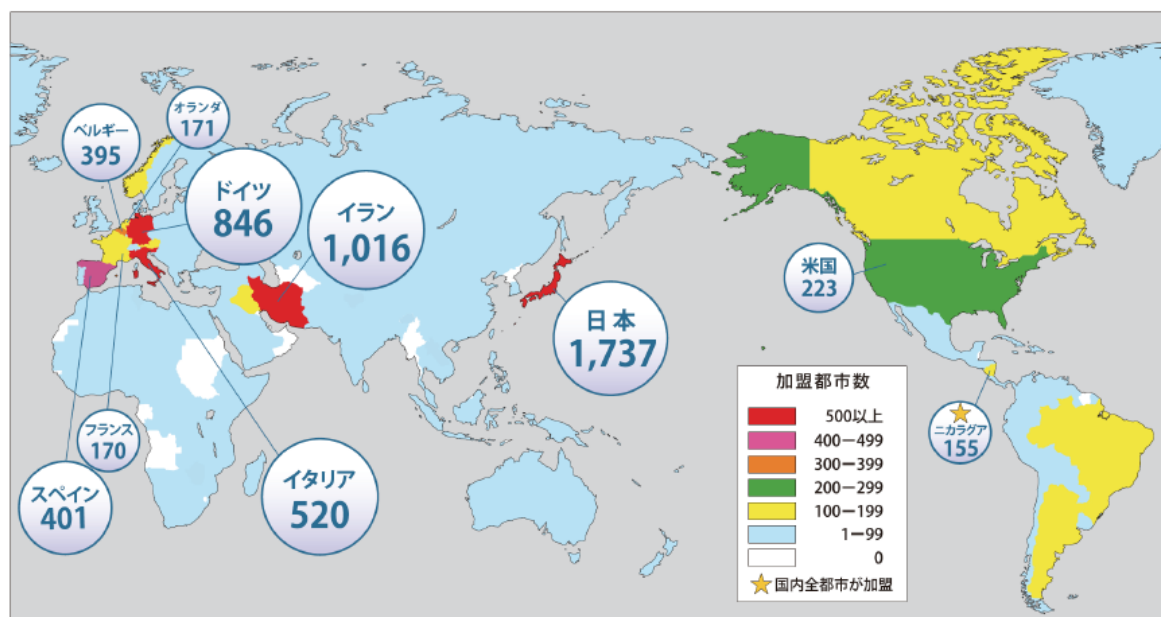
平和首長会議は、加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することを目的とした国際的な組織です。

平成22年8月1日、調布市は「平和市長会議」
(平成25年8月6日付けで「平和首長会議」に
名称変更)に加盟しました。



加盟認定証

【平和首長会議加盟都市分布図(加盟都市数上位10か国とその都市数)】



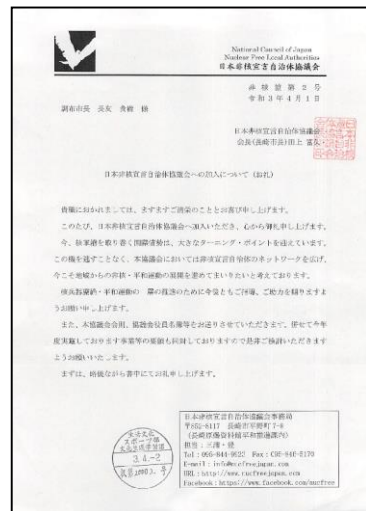
2023年2月1日現在

加盟都市数(令和5年2月1日現在)
166か国・地域 8, 237都市 うち国内加盟都市数1, 737都市
(平和首長会議ホームページから参照・抜粋)

にほんひかくせんげんじちたいきょうぎかい 日本非核宣言自治体協議会

日本非核宣言自治体協議会は、「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および将来の国民のために、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結びあい、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」という趣旨の下、1984年に広島県府中町で設立されました。

令和3年4月1日、調布市は「日本非核宣言自治体協議会」に加入しました。



加入お礼状

	都道府県	市	特別区	町	村	合計
会員自治体数	1	200	7	121	21	350
自治体総数	47	792	23	743	183	1,788

令和4年4月1日時点

《非核宣言自治体とは》

平和を希求し、核兵器廃絶や非核三原則の遵守などを求める内容の自治体宣言や議会決議を行った自治体のこと。

1980年に英国のマンチェスター市が行った「マンチェスター市非核都市宣言」が、非核宣言運動を世界に広める契機となった。マンチェスター市が自らのまちを非核兵器地帯であると宣言し、他の自治体にも同様の宣言をするよう求めると、これに英国内の多くの自治体が賛同し、やがて宣言運動は世界に広がった。

日本でも非核宣言を行う自治体が増え、現在では1,650を超える自治体が宣言を行っている。

平和都市宣言

「調布市非核平和都市宣言」「調布市国際交流平和都市宣言」

調布では、昭和58年9月27日に市議会が「調布市非核平和都市宣言」を、平成2年3月23日に市が「調布市国際交流平和都市宣言」をしています。

これらを踏まえ、市は、世界平和に向けて様々な平和祈念事業に取り組んでいます。

市役所前庭には、この2つの宣言と調布市民憲章を記載したパネルを設置しています。

また、調布市グリーンホール壁面に掲示した平和都市宣言パネルは、「調布市国際交流平和都市宣言30周年」を記念して、令和2年3月にリニューアルしたものです。

どちらも外国の方にも読んでいただけるよう、宣言には英文を併記しています。



市役所前庭のパネル



調布市グリーンホール壁面のパネル

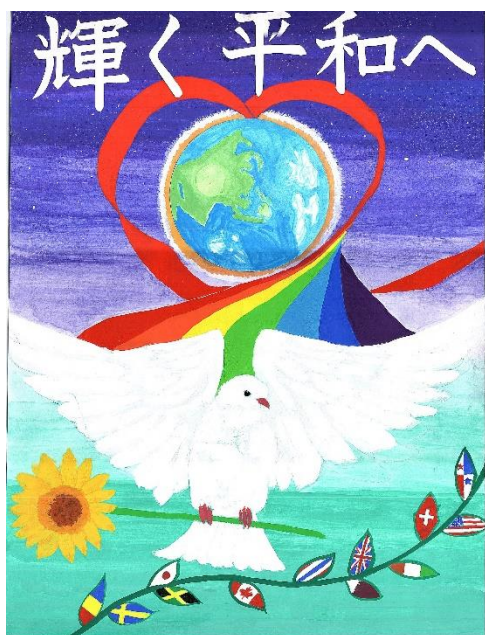
調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト

調布市が加盟している平和首長会議では、加盟都市における平和教育の更なる充実を図るため、全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象とした“平和なまち”をテーマにした絵画コンテストを平成30年度から実施しています。

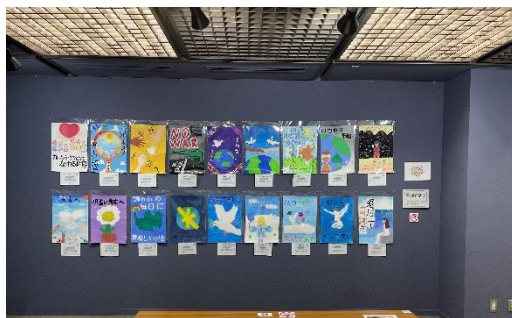
5回目となる令和4年度は世界15か国86都市から、8644作品（6歳～10歳の部：4304作品、11歳～15歳の部：4340作品）の応募がありました。

市でも独自で賞を設け、市への応募作品35作品の中から受賞作品を選定しました。

全応募作品を令和5年3月9日(木)～14日(火)に文化会館たづくり南ギャラリーにて開催した「調布市平和展」にて展示しました。



11歳～15歳の部
調布市長賞 杉田 あおいさん



調布市平和展展示の様子

その他平和祈念事業の紹介

ピース・レターちょうふ

夏の平和祈念事業の紹介及び平和に関する情報を発信するため、「ピース・レターちょうふ」を毎年7月頃に発行し、市立小・中学校の児童・生徒に配付するとともに、公共施設に配架しています。



国際交流平和基金

世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和祈念事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。

基金の原資は、市の予算による積立や、皆様からお寄せいただいた寄付金などです。平和祈念事業への活用事例としては、「ピース・レターちょうふ」の作成、「中学生被爆地平和派遣事業」等があります。

寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化生涯学習課にご連絡ください。



【問い合わせ】文化生涯学習課 042-481-7139

調布市国際交流平和基金のHPはこちら



おわりに

「令和4年度調布市中学生被爆地平和派遣事業ちょうふピースメッセンジャー2022 報告書」をご覧くださいありがとうございました。

実際に長崎へ行き、現地のピースボランティアに説明していただきながら自分の足で被爆遺構を巡ったこと、平和祈念式典に参列したこと、様々な自治体から集まった同世代の子どもたちと意見を交わしたことは、ピースメッセンジャーにとって貴重な経験になったことと思います。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが学び、感じた戦争の悲惨さや平和の尊さ、また、活動を通して抱いた新たな想いが、多くの皆様の手に渡ることを願っています。

戦争を知らない世代が増加していく中、悲惨な戦争を風化させることなく、二度と戦争を繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを次世代へと受け継いでいくため、今後も平和祈念事業を実施してまいります。

令和5年3月

協力

- ・NPO法人ちょうふこどもネット
- ・株式会社 タキオンジャパン
- ・株式会社渋谷不動産エージェント
- ・東京フットボールクラブ株式会社

参考資料

- ・平和首長会議ホームページ
- ・日本非核宣言自治体協議会ホームページ
- ・長崎市ホームページ
- ・長崎原爆資料館リーフレット
- ・旧城山国民学校校舎リーフレット
- ・長崎市永井隆記念館 発行 永井隆博士の生涯

表紙について

平和祈念像

郷土出身の彫刻家・北村西望氏の作で、昭和30年に完成。「右手は原爆を示し、左手は平和を、顔は戦争犠牲者の冥福を祈る」と作者の言葉が台座の裏に刻まれています。
(長崎市 HP より)



刊行物番号
2022—267

令和4年度調布市中学生被爆地平和派遣事業
ちょうふピースメッセンジャー2022

発行日：令和5年3月
発 行：調 布 市
編 集：生活文化スポーツ部文化生涯学習課
〒182-8511 調布市小島町2-35-1
電 話：042-481-7139（直通）
FAX：042-481-6881
E-mail：bunsin@city.chofu.lg.jp
